

# 国語

三下

——  
あおぞら

国語

三下

——  
あおぞら

文部科学省検定済教科書 38 光村 国語 314 小学校国語科用

光村図書

光村図書

9784813803898

1924381000000

ISBN978-4-8138-0389-8  
C4381 ¥00000E



光村図書

## この教科書を使うみなさんへ

ここでは、みんなで考えたい大切なことをたしかめることができます。読み取るときには、かならず、先生やおうちの方といっしょに行いましょう。

- ・タブレットなどを使うときは
- ・かんせんしょうたいさく
- ・ぼうさい
- ・SDGs(エスディーゼーズ)
- ・学校で使う日本語



保護者の皆様へ  
この教科書は、これからの社会を生きる子どもたちが、言葉に出会う喜びや、人とつながる楽しさを実感しながら、確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても、子どもたちと語り合うきっかけとしてこの教科書をご活用ください。

- この教科書は、次のような配慮や工夫をしています。
- ・全てのページについて、次の観点から、専門家による校閲を行っています。  
カラーユニバーサルデザイン／特別支援教育／学習のユニバーサルデザイン／人権教育／外国人児童生徒等教育／防災教育
  - ・持続可能な開発目標（SDGs）に関連するテーマを幅広く取り上げています。
  - ・児童の学習負担を軽減するよう、本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
  - ・読書紹介や学習用語の解説などの小さな文字には、見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
  - ・環境に配慮した紙、植物油インキを使用しています。

UD  
FONT



VEGETABLE  
OIL INK

教科書中には、「学校の新しい生活様式」を踏まえ、学習活動を設定したり、その様子を挿絵・写真で示したりしています。児童に、活動の様子や留意点を分かりやすく伝えるために、マスクの着用等を省略していますが、実際の活動に際しては、適切な感染症の予防にご配慮ください。

この教科書では、学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトにて用意し、その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また、通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は、下記のURL をご参照ください。  
[https://m-manabi.jp/06s/kokugo3\\_ge/](https://m-manabi.jp/06s/kokugo3_ge/)



この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。

三年

組



# 国語

三下

あおぞら



空がまぶしい、

このわたしの上に。

あそこの牛の上に。

あの山の上で生きている

一本松の上に。

みんなおんなじに

青く青くすんで……。





# 目次



国語の学びを見わたそう	5
場面をくらべながら読み、感想を書こう	
ちいちゃんのかげおくり	13



進行にそって、はんで話し合おう	
おすすめの「一さつ」を決めよう	36



れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう	
すがたをかえる大豆	43
食べ物ひみつを教えます	52

ことわざ・故事成語	一つたわる言葉	56
漢字の意味	「言葉」	60
短歌を楽しもう	一声に出して楽しもう	62



登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかいしよう	
三年とうげ	65



しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう	
わたしの町のよいところ	81



詩 <small>し</small> のくふうを楽 <small>たの</small> しもう	一	読む <small>よ</small> む	88
四 <small>よん</small> まいの絵 <small>え</small> を使 <small>つか</small> って	一	書 <small>か</small> く	92
カンジ <small>おんくん</small> ーはかせの音訓 <small>おんくん</small> かるた	一	言葉 <small>ことば</small>	94
読 <small>よ</small> んで考 <small>かんが</small> えたことをつたえ合 <small>あ</small> おう			
ありの行 <small>ぎょう</small> 列 <small>れつ</small>	大滝 <small>おたき</small> 哲也 <small>てつや</small>	.....	97



言葉について考えよう	
つたわる言葉で表そう	107
書き表し方をくふうして、物語を書こう	
たから島のぼうけん	111





つたえたいことを、理由をあげて話そう  
お気に入りの場所、教えます

登場人物について考えたことを、つたえ合おう  
モチモチの木 斎藤 隆介

三年生をふり返って

きせつの言葉 秋 34 冬 86  
漢字の広場 ④ 64 ⑤ 96 ⑥ 137



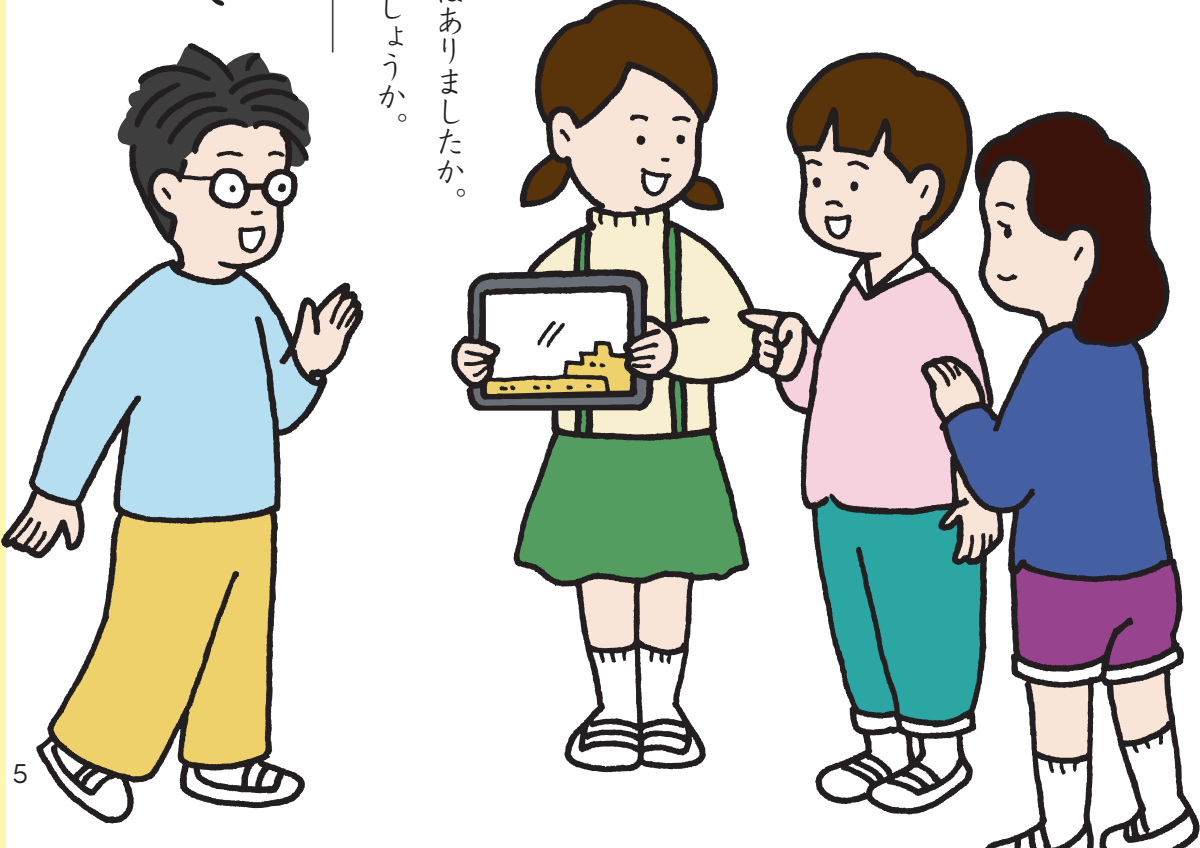
ひろく 学習を広げよう

「たいせつ」のまとめ	140	これまでに習った漢字	154
メロディ	144	この本で習う漢字	159
—— 大すきなわたしのピアノ (物語) ——	148	つたえ合うための言葉	163
本の世界を広げよう	150	学習に用いる言葉	164
げんこう用紙の使い方	152	言葉のたから箱	165
知ると楽しい「故事成語」	167	図を使って考えよう	167

こく 国語の学びを  
み 見たそう

これまでの学習の中で、  
「言葉っておもしろいな。」と感じたことはありませんか。  
すきな言葉や本に出会うことができたでしょうか。  
友だちと、よりよくつたえ合えるように——

もっと、言葉について  
学んでいこう。



この本では、次のしるしが使われています。



他の学習や生活の中でも役に立つ、  
大切なことを書いています。  
国語の学習に用いる言葉を  
たしかめましょう。  
学習に関係のあるページを  
しめています。

文字や言葉のしるし

新しく学習する漢字。

読み方が新しい漢字。

音はかたかなで、訓は平がなで  
しめています。

とくべつな読み方をする言葉。  
読み方に気をつけるかな。



このしるしがあるところには、学習の  
助けとなるしるしがあります。読  
み取るときには、かならず、先生やお  
うちの方といっしょに行いましょう。



がくしゅう せい かつ  
学<sup>がくしゅう</sup>や生活<sup>せい かつ</sup>にいかす

こくご がくしゅう ほかに ばめん  
国語で学<sup>がくしゅう</sup>したことを、他の場面<sup>ほかに ばめん</sup>でいかしたことはありますか。

がくしゅう せい かつ なか  
学<sup>がくしゅう</sup>や生活<sup>せい かつ</sup>の中で

ことば ことば つか かた  
言葉<sup>ことば</sup>や、言葉<sup>ことば</sup>の使い方<sup>つか かた</sup>について、「もっと——したい。」  
おも  
と思ったことはありますか。

ふりかえる

よ 読む

か 書く

はな 話す・きく

み とお 見通しをもつ

と 問いをもつ



ふりかえろう

「——という言葉<sup>ことば</sup>の使い方<sup>つか かた</sup>をし  
知<sup>し</sup>った。」  
「——をくふうすることが  
でき<sup>し</sup>た。」  
「次<sup>つぎ</sup>は、——をがんばりたい。」  
「〇〇さん<sup>はつぜん</sup>の発言<sup>かんが</sup>で、考え<sup>かんが</sup>が  
深<sup>ふか</sup>まった。」



● みんなでよく考<sup>かんが</sup>える

ことば いみ  
「この言葉<sup>ことば</sup>は、——という意味<sup>いみ</sup>だから——。」  
「どうすれば、うまくつたわるかな。」  
「もう一度<sup>いちど</sup>やってみよう。」



たいせつ

「——のときは、  
こうすればいいんだ。」



● ひとりでじっくり考<sup>かんが</sup>える

だいじ  
「大事なことを  
たしかめておこう。」

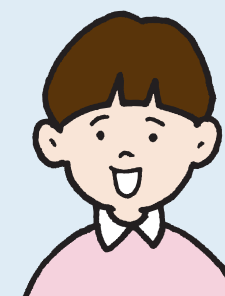


もくひょう



と 問いをもとう

「こんなことがしたい。」  
「こうすればできそう。」  
「どうして——だろう。」





# 三年生で学ぶこと

進行を考えながら話し合う 36



理由をあげて、つたえたいことを話す  
116

## 話す・聞く

上

ことばのじゅんびうんどう  
よく聞いて、じこしようかい  
話を聞いて、知りたいことをしつもんする  
もっと知りたい、友だちのこと  
話し合つて、考えを広げる  
こんな係がクラスにほしい

これから、進行を考えた話し合いの  
しかたや、文章の分かりやすい組み立  
て方を学んだね。



# 三年上までに学んだこと

つたえたいことを、「したこと」や「思ったこ  
と」などから、くわしく思い出す。

つたえたいことを、「はじめ」「中」「終わり」の  
組み立てで整理する。

聞き取りやすい声の大きさや、話す速さ  
をくふうする。  
相手に正しくつたわるように話す。  
話の中心に気をつけて聞く。  
自分がとくに知りたいことをはつきりさ  
せ、どうしつもんするとよいかを考える。  
全員が意見を出し、たがいの考えをみと  
めながら話し合つて、考えを広げる。

話したり、聞いたり、話し合つたりして、気が  
ついたことをつたえ合う。

三年上で学んだ「図を使って、何を  
書くか」は、国語いがいでも使えそう。



## 書く

分かりやすい組み立てを考える 52

書いた文章の感想をつたえ合う 81

物語を書くときの組み立て 92

書き表し方をくふうして、物語を書く  
111

楽しく書く

読みかえして、文章をととのえる

読む人のことを考えて、書くことをえらぶ

図を使って、何を書くかを考える  
書くことを考えるときは





せつめいする文章

話題と、れいの書かれ方を考えながら読む

すがたをかえる大豆 43

せつめいする文章を読んで、

考えをもつ

ありの行列 97



文章全体の組み立てをとらえる

文様

こまを楽しむ

作り手のくふうを考える

ポスターを読む

キャッチコピー

問い 段落

物語

場面をくらべながら読み、感想をもつ

ちいちゃんのかげおくり 13

会話文・地の文

ないようや書かれ方に

着目して読む

三年とうげ 65

登場人物についての

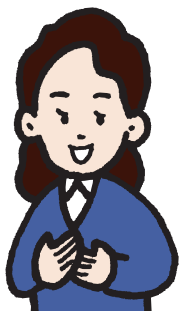
考えをつたえ合う

モチモチの木 121

詩

詩のくふうを楽しもう

88



物語

言葉に着目して、登場人物の気持ちをたしかめる

春風をたどって

登場人物がどのように

へんかしたかを考える

詩

ときん

わたしと小鳥とすずと夕日がせなかをおしてくる

連

三年上までに学んだこと

せつめいする文章

文章は、「はじめ」「中」「終わり」などの大きなまとまりに分けられる。

登場人物の気持ちがある言葉を見つける。

気持ちをそのまま表す言葉

したことや言ったことを表す言葉

場面の様子を表す言葉

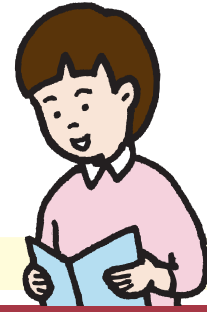
題名やさし絵を手がかりにする。

とらえよう

Table with 3 columns: はじめ, 中, 終わり

一つの段落には、ひとつのまとまりのないようが書かれる。

「はじめ」の段落には、「問いの文」が書かれていることがあったね。



「場面をくらべる」って、どういうことだろう。

せつめいする文章

大事な言葉や文が何かを考える。

だれに向けて書かれているか、何を、どのようにつたえようとしているかを考える。

出来事が起こる前と後で、登場人物がどのようにへんかしたかを考える。

登場人物の考え方や気持ちのへんかを、言葉からそうぞうする。

ふかめよう

まとめよう

読んで分かったことと、自分の知っていることをくらべて考える。

ひろげよう

友だちの感想を聞いて、いろいろな感じ方や考え方があつたことを知る。



言葉の使い方

修飾語を使って  
書くこと

漢字の意味

カンジーはかせの  
音訓かるた

つたわる言葉で  
表そう

漢字の広場④⑥

107 94 60 31

受けつがれてきた言葉

ことわざ・故事成語

短歌を楽しもう

きせつの言葉  
秋・冬

62 56

じょうほう

全体と中心  
引用するとき

引用  
出典

読書

図書館たんていだん  
本で知ったことを  
クイズにしよう

鳥になった  
きょうりゅうの話

さくいん

二年生で学んだこと

言葉の使い方

主語と述語

にた意味の言葉、反対の意味の言葉  
様子を表す言葉

かたかなで書く言葉

同じ部分をもつ漢字

なかまの言葉と漢字

漢字の読み方

受けつがれてきた言葉

昔話などを聞いて楽しむ  
言葉遊び

じょうほう

順序

メモの取り方

読書

学校図書館（本の分け方・ならべ方）  
本をしようかいする



読む

場面をくらべながら読み、  
感想を書こう

これまでの学習



言葉に着目して、登場人物の気持ちをたしかめる  
（春風をたどって）  
登場人物がどのようにへんかしたかを考える  
（まいごのかぎ）

上 34 ページ

上 90 ページ

ちいちゃんの  
かげおくり

「かげおくり」という遊びを知っていますか。「かげおくり」をして楽しく遊んでいた「ちいちゃん」たちですが、だんだん、それができなくなっていきました。



# ちいちゃんのかげおくり

あまん きみこ  
上野 紀子  
作 絵

「かげおくり」って遊びをちいちゃんに教えてくれたのは、お父さんでした。

出征する前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖のはかまいりに行きました。その帰り道、青い空を見上げたお父さんが、つぶやきました。

「かげおくりのよくできそうな空だなあ。」

「えっ、かげおくり。」

と、お兄ちゃんがききかえました。

「かげおくりって、なあに。」

と、ちいちゃんもたずねました。

「十、数える間、かげぼうしをじっと見つめるの

さ。十、と言ったら、空を見上げる。すると、

かげぼうしがそっくり空にうつって見える。」

と、お父さんがせつめいしました。

「父さんや母さんが子どものときに、よく遊んだものさ。」

「ね。今、みんなで作ってみましょうよ。」

と、お母さんが横から言いました。

ちいちゃんとお兄ちゃんを中にして、四人は手をつなぎました。そして、みんなで、かげぼうし



5

新漢字 159 ページ

感想 ソウ

出征 へいたいになって、ぐんたいに入り、いくさ（せんそう）に行くこと。

◆お父さん

◆お兄ちゃん

に目を落<sup>め</sup>としました。

「まばたきしちや、だめよ。」

と、お母<sup>かあ</sup>さんが注意<sup>ちゅうい</sup>しました。

「まばたきしないよ。」

ちいちゃんとお兄<sup>にい</sup>ちゃんが、やくそくしました。

「ひとつつ、ふたあつ、みいつつ。」

と、お父<sup>とう</sup>さんが数<sup>かず</sup>えだしました。

「ようつつ、いつうつ、むうつつ。」

と、お母<sup>かあ</sup>さんの声<sup>こえ</sup>もかさなりました。

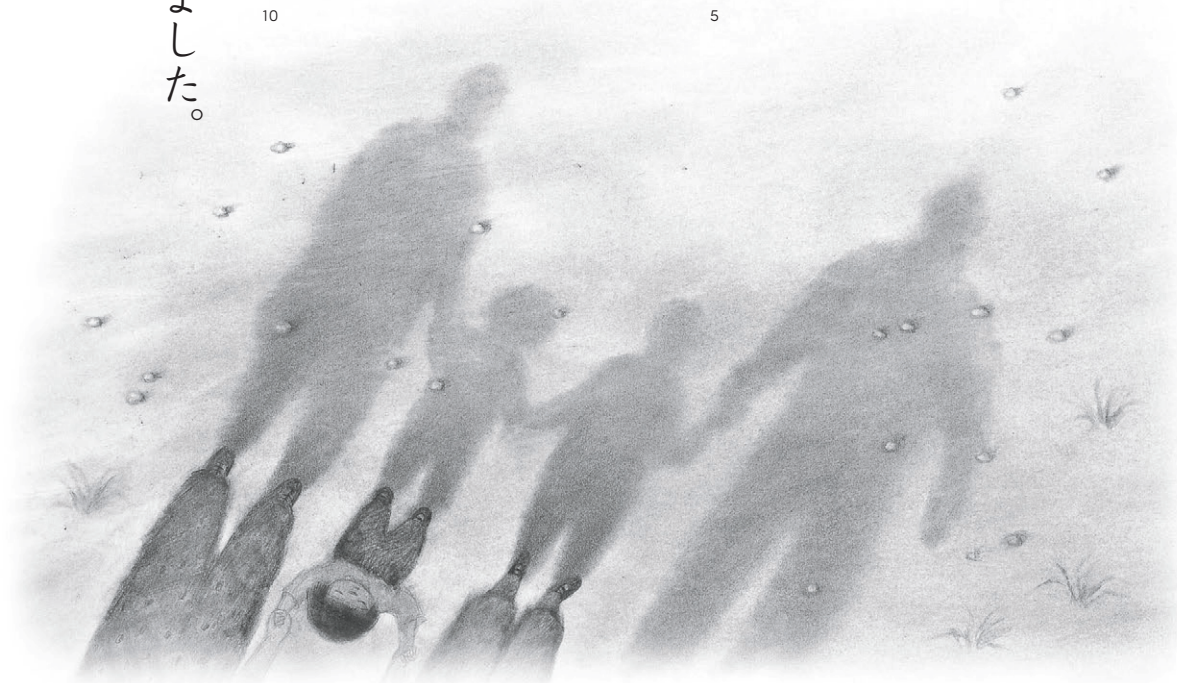
「ななあつ、やあつつ、ここのうつ。」

ちいちゃんとお兄<sup>にい</sup>ちゃんも、いっしよに数<sup>かず</sup>えだしました。

「とお。」

5

10



目の動<sup>うご</sup>きといっしよに、白<sup>しろ</sup>い四<sup>よっ</sup>つのかげ

ぼうしが、すうつと空<sup>そら</sup>に上<sup>あ</sup>がりました。

「すごい。」

と、お兄<sup>にい</sup>ちゃんが言<sup>い</sup>いました。

「すごい。」

と、ちいちゃんも言<sup>い</sup>いました。

「今日の記<sup>き</sup>念<sup>ねん</sup>写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>だなあ。」

と、お父<sup>とう</sup>さんが言<sup>い</sup>いました。

「大きな記<sup>き</sup>念<sup>ねん</sup>写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>なこと。」

と、お母<sup>かあ</sup>さんが言<sup>い</sup>いました。

次の日<sup>つぎ ひ</sup>、お父<sup>とう</sup>さんは、白<sup>しろ</sup>いたすきをかたからななめにかけ、日<sup>ひ</sup>の丸<sup>まる</sup>のはたに送<sup>おく</sup>られて、列<sup>れっ</sup>車<sup>しゃ</sup>にのりました。

10

5

写<sup>しゃ</sup>真<sup>しん</sup>

列<sup>れっ</sup>車<sup>しゃ</sup>

シャ  
うつす

シン

レッ



「体の弱いお父さんまで、いくさに行かなければならないなんて。」  
お母さんがぼつんと言ったのが、ちいちゃんの耳には聞こえました。  
ちいちゃんとお兄ちゃんは、かげおくりをして遊ぶようになりま  
した。ばんざいをしたかげおくり。かた手をあげたかげおくり。足  
を開いたかげおくり。いろいろなかげを空に送りました。  
けれど、いくさがはげしくなつて、かげおくりなどでできなくなり  
ました。この町の空にも、しょういだんやばくだんをつんだひこう  
きが、とんでくるようになりました。そうです。広い空は、楽しい  
所ではなく、とてもこわい所にかわりました。

夏のはじめのある夜、くうしゅうけいほうのサイレンで、ちい  
ちゃんたちは目がさめました。

「さあ、いそいで。」  
お母さんの声。  
外に出ると、もう、赤い火が、あちこちに上がっていました。  
お母さんは、ちいちゃんとお兄ちゃんを両手につないで、走りま  
した。

風の強い日でした。  
「こっちに火が回るぞ。」  
「川の方ににげるんだ。」  
だれかがさけんでいます。  
風があつくなつてきました。ほのおの  
うずがおいかけてきます。お母さんは、  
ちいちゃんをだき上げて走りました。

しょういだん  
たてものをやきはら  
うために作られたば  
くだん。



写真

くうしゅうけい  
ほう  
てきのひこうきによ  
るこっげきをしらせ  
る合図。



「お兄ちゃん、はぐれちゃだめよ。」

お兄ちゃんがころびました。足から血が出ています。ひどいけがです。お母さんは、お兄ちゃんをおんぶしました。

「さあ、ちいちゃん、母さんとしっかり走るのよ。」

けれど、たくさんの人においぬかれたり、ぶつかったり——、ちい

ちゃんは、お母さんとはぐれました。

「お母ちゃん、お母ちゃん。」

ちいちゃんはさけびました。

そのとき、知らないおじさんが言いました。

「お母ちゃんは、後から来るよ。」

そのおじさんは、ちいちゃんをだいて走ってくれました。



暗い橋の下に、たくさんの人が集まっていました。ちいちゃんの目に、お母さんらしい人が見えました。

「お母ちゃん。」

と、ちいちゃんがさけぶと、おじさんは、

「見つかったかい。よかった、よかった。」

と下ろしてくれました。

でも、その人は、お母さんではありませんでした。

ちいちゃんは、ひとりぼっちになりました。ちいちゃんは、たくさんの人たちの中でねむりました。

朝になりました。町の様子は、すっかりかわっています。あちこち、けむりがのこっています。どこがうちなのか——。



「ちいちゃんじゃないの。」

という声。ふり向くと、はす向かいのうちのうちはおばさんが立っています。

「お母ちゃんは。お兄ちゃんは。」

と、おばさんがたずねました。ちいちゃんは、なくのをやるところへて言いました。

「おうちのところ。」

「そう、おうちにもどっているのね。おばちゃん、今から帰るところよ。いっしょに行きましょうか。」

おばさんは、ちいちゃんの手をつないでくれました。二人は歩きだしました。

家は、やけ落ちてなくなっていました。

「ここがお兄ちゃんとあたしのへや。」

ちいちゃんがしがんでいると、おばさんがやって来て言いました。

「お母ちゃんたち、ここに帰ってくるの。」

ちいちゃんは、深くうなずきました。

「じゃあ、だいじょうぶね。あのね、おばちゃんは、今から、おばちゃんのお父さんのうちに行くからね。」

ちいちゃんは、また深くうなずきました。

その夜、ちいちゃんは、ぎつのうの中に入れてあるほしいを、少し食べました。そして、こわれかかった暗いぼうくうごうの中で、ねむりました。

「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」

くもった朝が来て、昼がすぎ、また、暗い夜が来ました。

10



5

ぎつのう

いろいろな物を入れてかたにかけ、ぬので作ったかばん。

ほしい

ごはんをほしてかわかした食べ物。

ぼうくうごう

ばくだんなどから、みをまもるためにほった、大きなあな。

写真



10

5

ちいちゃんは、ざつのうの中のほしいを、また少しかじりました。  
そして、これかかったぼうくうごうの中でねむりました。

明<sup>あか</sup>るい光<sup>ひかり</sup>が顔<sup>かお</sup>に当<sup>あ</sup>たって、目<sup>め</sup>がさめました。

「まぶしいな。」

ちいちゃんは、暑<sup>あつ</sup>いような寒<sup>さむ</sup>いような気がしました。ひどくど  
がかわいています。いつのまにか、太<sup>たい</sup>陽<sup>よう</sup>は、高<sup>たか</sup>く上<sup>あ</sup>がっていました。  
そのとき、

「かげおくりのよくできそうな空<sup>そら</sup>だなあ。」

というお父<sup>とう</sup>さんの声<sup>こえ</sup>が、青<sup>あお</sup>い空<sup>そら</sup>からふってきました。

10

「ね。今<sup>いま</sup>、みんなでやってみましょうよ。」

というお母<sup>かあ</sup>さんの声<sup>こえ</sup>も、青<sup>あお</sup>い空<sup>そら</sup>からふってきました。

ちいちゃんは、ふらふらする足<sup>あし</sup>をふみしめて立<sup>た</sup>ち上<sup>あ</sup>がると、たっ  
た一つのかげぼうしを見<sup>み</sup>つめながら、数<sup>かず</sup>えだしました。

「ひとつつ、ふたあつ、みひとつ。」

いつのまにか、お父<sup>とう</sup>さんのひくい声<sup>こえ</sup>が、かさなって聞<sup>き</sup>こえだしました。

「ようつつ、いつうつ、むうつつ。」

お母<sup>かあ</sup>さんの高<sup>たか</sup>い声<sup>こえ</sup>も、それにかさなって聞<sup>き</sup>こえだしました。

「ななあつ、やあつつ、ここのうつ。」

お兄<sup>にい</sup>ちゃんのわらいそうな声<sup>こえ</sup>も、かさなってきました。

「とお。」

ちいちゃんが空<sup>そら</sup>を見<sup>み</sup>上げると、青<sup>あお</sup>い空<sup>そら</sup>に、くっ  
きりと白<sup>しろ</sup>いかげが四<sup>よっ</sup>つ。

「お父<sup>とう</sup>ちゃん。」

10

5

5

寒<sup>さむ</sup>い      暑<sup>あつ</sup>い  
——      ——  
さむい      あつい



ちいちゃんはよびました。

「お母ちゃん、お兄ちゃん。」

そのとき、体がすうっとすき通って、空にすいこまれていくのが分かりました。

一面の空の色。ちいちゃんは、空色の花ばたけの

中に立っていました。見回しても、見

回しても、花ばたけ。

「きっと、ここ、空の上よ。」

と、ちいちゃんは思いました。

「ああ、あたし、おなかがすいて軽く  
なったから、ういたのね。」

そのとき、向こうから、お父さんと



10

。軽

けい

5

お母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくるのが見えました。  
「なあんだ。みんな、こんな所にいたから、来なかったのね。」  
ちいちゃんは、きらきらわらいだしました。わらいながら、花ばたけの中を走りだしました。  
夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえました。

。命

めい

5

それから何十年。町には、前よりもいっぱい家がたっています。  
ちいちゃんが一人でかけおくりをした所は、小さな公園になっています。

青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたち、きらきらわらい声を上げて、遊んでいます。

10

あまん きみこ  
一九三一年生まれ。  
作家。「きつねのお  
きやくさま」「おに  
たのぼうし」などの  
作品がある。

動画



見通しをもとう



問いをもとう

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、あなたの心に強くなるのは、どんなことですか。それは、どうしてですか。

第一場面  
ダイ  
会話文・地の文  
164 ページ



もくひょう

場面をくらべながらくわしく読んで、物語の感想を書き、友だちと読み合おう。

- ・時や場所、登場人物の行動を表す言葉に気をつける。
- ・場面をくらべながら読み、気づいたことをもとに、感想をもつ。

とらえよう

○この物語は、五つの場面に分かれています。第一場面と第四場面の「かげおくり」の様子をくらべ、同じところやちがうところをたしかめましょう。  
・時と場所・登場人物・会話文と、前後の地の文  
○二つの「かげおくり」の間には、どんな出来事があったでしょう。その間に、「ちいちゃん」のまわりからうしなわれていったものは、何でしょう。

1 言葉に着目しよう  
次のような、行動を表す言葉や、場所の様子を表す言葉からも、登場人物の気持ちをそうぞうすることが出来ます。  
・「さげびました」(20ページ8行目)  
・「これがかかった暗いぼうくう」の中で(23ページ9行目)

ふかめよう

○第一場面から第四場面までで、「ちいちゃん」の気持ち、どのようにかわっていったでしょう。か。  
○第五場面があることで、どんなことが分かりますか。第四場面までとくらべて考えましょう。

2 まとめ方のれい  
「言葉のたから箱」  
165 ページ

まとめよう

○場面をくらべて読んだり、くわしく読んだりして感じたことを、理由とともに、文章にまとめましょう。はじめて読んだときに感じたこととくらべて、ちがいはあるでしょうか。

ひろげよう

○友だちと感想を読み合い、自分の感じ方とにているところや、ちがうところをつたえ合ひましょう。

わたしは、「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、  
「自分が感じていることを、みじかい言葉で表す。」  
・つらい・悲しい・温かい など  
気持ちになりました。  
その理由は、  
「物語のどこからそう感じるのかを、くわしく書く。」  
・物語の中の言葉や場面  
・登場人物の行動や会話、気持ち  
・登場人物やまわりの様子のうつりかわりなど



ふりかえろう

知る 読む つなぐ  
どのような言葉に着目して、「ちいちゃん」の気持ちのへんかをそうぞうしましたか。  
くわしく読むことで、この物語に対する感想は、はじめとどうかわりましたか。  
感想を文章にまとめてよかったと思うのは、どんなことですか。





たいせつ

場面をくらべながら読み、感想をもつ

○場面をくらべて読み、にているところやちがうところ、登場人物の気持ちのうつりかわりを考える。

○場面をくらべることで気づいたことや、かわったり深まったりした考えについて、物語のどこからそう感じたのかを明らかにしながらまとめる。



いかそう

物語の中に、にた出来事が出てきたら、くらべながら読んでみましょう。

「場面をくらべながら読む」ことに気をつけて、144ページの「メロディ——大すきなわたしのピアノ」を読んでみましょう。

15

10

5



この本、読もう

せんそうがえがかれた物語です。場面をくらべながら読んでみましょう。



だっこの木

カズヤに「だっこの木」とよばれていた、いちようの木。やがて、せんそうがはげしくなつて——。

5



えんぴつびな

くうしゅうで家をなくしたわたしに、シンペイちゃんはおひなさまをくれました。でも、次の日——。

10



せんそうをはしりぬけた『かば』でんしゃ

『かば』電車は、せんそう前からせんそう中、せんそう後も、たくさんの人をのせて、走りました。

15

• 明らか

メロディ



言葉

修飾語を使って書く



問いをもとう

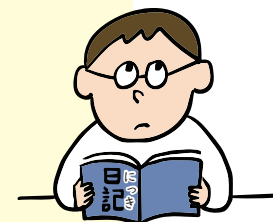
これまでの学習で自分が書いた文章を、読み返してみよう。分りにくいところを見つけたら、その理由を考えてみましょう。

青山さんの場合

花が、さきました。



どんな花がさいたんだっけ。この文だけだと、よく分からないな。



新漢字

159 ページ

読み返す

へんかえす

主語

おも

青山さんは、一年生のときに書いた日記を読み返しています。主語と述語のそろった一文ですが、どんな花だったのか、よく分かりません。

主語

花が

述語

さきました。

5

くわしく分かるように書くには、どうすればよいでしょうか。

文の中で、「何が（は）」「だれが（は）」に当たる言葉を主語、「どうした（どうする）」「どんなだ」「何だ」に当たる言葉を述語といいます。

5

いかそう

人と話したり、感想文などを書いたりするときには、修飾語を使って、つたえたいことが相手によく分かるようにしましょう。

3

修飾語を使って、下の写真の様子をくわしく書きましょう。

「言葉のたから箱」  
165 ページ

2

修飾語をくわえて、次の文をくわしくしましょう。

- 水が、ながれる。
- 山田さんは、守った。
- 荷物が、おもい。
- 勉強は、役立つ。

1

次の言葉は、どの言葉に係っているでしょうか。友だちと話ししましょう。

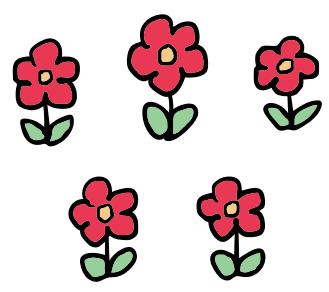
弟の 風船が、 屋根の 上を ふわふわと とぶ。	ぼくは、 明日 九州の 友だちに 手紙を 書く。
---	---

「いつ」「どこ」「だれ」「何（どこ）を」「だれ（何）の」「どのように」に当たる言葉も、修飾語です。



- |    |     |     |    |    |     |     |
|----|-----|-----|----|----|-----|-----|
| 明日 | 役立つ | 守る  | 荷物 | 屋根 | 風船  | 九州  |
| あす | ヤク  | まもる | ニ  | や  | フセン | シュウ |

③ 赤い 花が、 たくさん さきました。	② 赤い 花が、 さきました。	① 花が、 さきました。
----------------------------------	--------------------------	--------------------



上の三つの文では、同じ主語と述語が使われています。そして、  
分をつけ足すことで、文の意味が定まって、だんだんと分かりやすい文になっています。  
③の文で、「赤い」は、主語の「花が」に係って、それぞれの意味をくわしくしています。

③の文をもっとくわしくしたら、どんな修飾語をくわえることができるでしょうか。また、その修飾語は、どの言葉に係るでしょうか。





# 秋のくらし

虫の声

(文部省唱歌)

あれ松虫が 鳴いている

ちんちろ ちんちろ ちんちろりん

あれ鈴虫も 鳴き出した

りんりんりんりん りいんりん

秋の夜長を 鳴き通す

ああおもしろい 虫の声



5

生活の中で、秋らしさを感じることはあります。みの回りで見つけた、秋を感じたものについて書きましょう。

きのうは、夕食に新米を食べました。今年とれたお米だそうです。つやつやしていて、味は、いつも食べているお米よりもあまい気がしました。

「○○の秋」という言い方をすることがあります。

しよくよくの秋 げいじゅつの秋



スポーツの秋



秋はしゆくかくのきせつといわれ、いろいろな食べ物、ゆたかにみのります。



新米

# おすすめの「一さつ」を決めよう

いちねんせい  
一年生から、「本がすきになる  
ような、楽しい本を教えてください  
い」というおねがいがありました。  
そこで、土川さんのクラスでは、  
はんごとに「一さつずつ決めて、  
しようかいすることになりました。



## と問いをもとう

はんで話し合いをするときに、どんなことに気  
をつけていますか。どのように話し合いを進める  
と、意見をまとめることができるのでしょうか。

## もくひょう

はんの中で役わりを決め、進行にそって、意見  
をまとめる話し合いをしよう。

## ① 目的と決めることをたしかめ、自分の考えをもとう。

### 目的

一年生が本をすきになってくれるような、楽し  
い本をしようかいする。

### 決めること

しようかいする本を、一さつ決める。

しようかいしたい本とその理由を、ふせんに書きましよう。

## ② 役わりを決め、進め方をたしかめよう。

話し合いには、司会やきろく係、時間係などの役わりがありま  
す。役わりと進め方を、ノートなどに書きましよう。

## ● たしかめよう

「三年上までに学んだこと」…………… 8 ページ  
「こんな係がクラスにほしい」…………… 上 122 ページ

## ● 見通しをもとう

① 目的と決めることをたしかめ、  
自分の考えをもつ。

② 役わりを決め、進め方をたし  
かめる。

③ 進行にそって話し合う。

④ 話し合いのしかたで、よかつ  
たところをつたえ合う。

## ● ふりかえろう

- ・ たがいの考えの、同じところやちがうと  
ころを整理する。
- ・ 目的や進め方をたしかめ、司会の進行に  
そって話し合う。

## ○ 進め方のれい

- ① 意見を出し合う。(五分間)
- ② 決め方について話し合う。(五分間)
- ③ 決め方にそって話し合う。(十分間)
- ④ 話し合いをまとめる。(二分間)



司会

話し合いを進めるこ  
と。また、進める人  
のこと。  
164 ページ



### 3 進行にそって話し合おう。

▼次の話し合いのれいから、どのようなことに気をつけられよいかを考えましよう。

#### 意見を出し合う

司会 土川

これから、一年生にしようかいする本について話し合います。目的は、一年生が本をすきになつてくれるような、楽しい本をしようかいすることです。はじめに、しようかいしたい本とその理由を、五分間で出し合います。次に、本の決め方を、五分間話し合います。その後、十分間で、しようかいする本を一さつえらびましよう。では、北田さんから考えを教えてください。

北田 (きろく)

はい。ぼくは、「たんたのたんけん」がいいと思います。わくわくするような出来事がいくつもあつて、自分もたんけんしている気持ちで楽しく読める本だからです。

北田

みんなが出した本について、しようかいしたい理由を整理すると、「出来事」「言葉の使い方」「絵」の楽しさに分けられます。

#### 決め方について話し合う

司会

北田さん、ありがとうございます。では、一年生にしようかいする本を一さつえらぶとすると、どの楽しさのある本がよいでしょうか。

水野

出来事が楽しい本がいいと思います。話にむちゆうになることで、本を読む楽しさを知ってほしいからです。

司会

それでは、出来事が楽しい本の中から、一さつ決めましよう。

...

たんけんの話はどきどきするので、少し長いお話でも、一年生は楽しめると思います。だから、「たんたのたんけん」がいいのではないかと思います。

北田

「たんたのたんけん」には、表紙を開いたところに、「たんけんの地図」があるのいいと思います。

原 (時間)

「たんけんの地図」があると、どうしていいのですか。

北田

地図を見るだけでも、たんけんが思いうかんで楽しめるし、見ていたら、きつと読みたくなると思うからです。

#### 意見を出し合うときは

司会

話し合いの目的と進め方をたしかめる。

何について意見を出してもらうのかをはつきりさせる。

発言する人

発言するときは、考えとその理由を言う。

#### 話し合うときは

司会、きろく係

出た意見を、にているところやちがつところをもとに整理する。

考えを書いたふせんを動かしながら、話し合いを整理してしめす。

れい

（しようかいしたい理由）

出来事

たんたのたんけん

言葉の使い方

あいいうえおばけだぞ

へんてこもりにいこうよ

ひらがなだいぼうけん

司会

話し合いの目的に合った決め方になるように、声をかける。

話がそれたときは、元にもどす。

土川さんのはんの話し合いを見てみましよう。





ぼくは、「三びきのやぎのらがらどん」がいいと思います。ようち園のげきで、やぎの役をしました。

ぼくも、そのげきをしたことがあります。

少し話がそれています。一年生が楽しめる出来事かどうかを話し合いましょう。

5



そろそろ二十分たちます。まとめに入ります。



わたしは、「たんだのたんけん」にさんせいです。「たんだのたんけん」は、わくわくする出来事があるのいいと思います。また、北田さんが言ったように、表紙を開いたところの地図を見ていたら、あまり本を読まない一年生でも、読んでみたくなるのではないでしようか。

10

## 話し合いをまとめる



一年生にしようかいする本は、「たんだのたんけん」に決まりました。一年生が楽しく読めて、本をすきなってくれると思います。

...

## 話し合いをまとめるときは

- 〈発言する人〉
- 司会の進行にそって発言する。
  - 自分と友だちの意見の、同じところとちがうところをはつきりさせる。
  - 分からないことは、しつもんする。

5

- 〈時間係〉
- 進行にそって、のこのりの時間の使い方、みんなに知らせる。

10

- 司会
- 決まったことをたしかめる。

ほかに、大事なと思ったことはありますか。



理由が目的と合っていないときは、目的に合う理由を引き出すしつもんをしましょう。

水野



「じごくのそうべえ」がいいです。みじかい時間で読めるし、お気に入りの本だからです。

北田



ぼくは「じごくのそうべえ」を読んだことがないのですが、どういところ、一年生に本をすきなになってもらえそうだと思いますか。

5

原



ぼくは、ぜったいに、「あいいうえおばけだぞ」がいいです。

司会



「あいいうえおばけだぞ」は、わたしもすきです。でも、さつき話し合った決め方では、出来事が楽しい本の中からえらぶことにしたから、――。

10

## 司会をするときの言葉

### 〈意見を引き出す〉

- ・理由を教えてください。
- ・くわしくせつめいしてください。
- ・しつもんはありませんか。
- ・ほかに、意見はありませんか。
- ・ほかの人の意見につけ足すことはありますか。
- ・少し、考える時間をとりましょう。

5

### 〈意見をまとめる〉

- ・話し合ったことをたしかめます。ここまでに出た意見は〇つです。
- ・意見の同じところとちがうところを、整理してみましょう。
- ・〇〇さんと〇〇さんの考えを合わせ、――としてもいいですね。

15

10



4

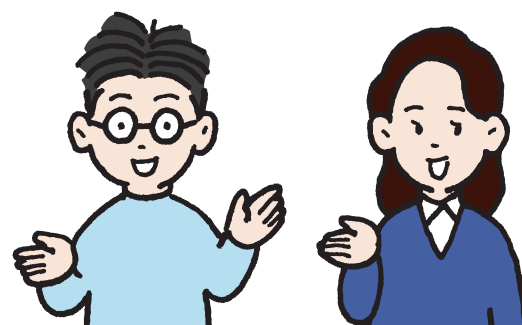
話し合いのしかたで、よかったところをつたえ合おう。

発言のしかた

はじめに自分の意見を言うから、その理由を言ったのがよかったね。

話し合いの整理のしかた

ふせんをならべかえながら考えたことで、分かりやすくなったね。



ふりかえろう

知る  
話す・聞く  
つなぐ

みんなの考えを整理するとき、どんなふうをしましたか。  
意見がまとまるように、どのようなことに気をつけ話し合いましたか。  
これから話し合いをするときには、どのようなことを心がけたいですか。



書く／読む

れの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書く

これまでの学習

文章全体の組み立てをとらえる  
(文様・こまを楽しむ) ……

読む人のことを考えて、書くことをえらぶ  
(仕事のくふう、見つけたよ) ……

上 64 ページ  
上 102 ページ

すがたをかえる大豆

食べ物のひみつを  
教えます

食べ物について、あなたは、どんなことを知っていますか。大豆についてのせつめいを読み、あなたも、食べ物のひみつを調べて、文章に書きましよう。



たいせつ

進行を考えながら話し合う

- はじめに、話し合いの目的と、決めること、役わり、進め方をたしかめる。
- 出た意見の、同じところやちがうところを整理しながら進行する。
- 司会の進行にそって、みんなでどうやって決めるのかをいしきしながら話し合い、考えをまとめる。



いかそう

係活動や学習の中で何かを決めるときには、進行を考えて、話し合いましよう。

# すがたをかえる大豆

国分牧衛

わたしたちの毎日の食事には、肉・やさ  
いなど、さまざまなざいりようが調理され  
て出てきます。その中で、ごはんになる米、  
パンやめん類になる麦のほかにも、多くの  
人がほとんど毎日口に使っているものがあり  
ます。何だか分かりますか。それは、大豆  
です。大豆がそれほど食べられていること

5



は、意外と知られていません。大豆は、い  
ろいろな食品にすがたをかえていることが  
多いので、気づかれないのです。

大豆は、ダイズという植物のたねです。

えだについたさやの中に、二つか三つのた  
ねが入っています。ダイズが十分に育つと、  
さやの中のたねはかたくなります。これが、  
わたしたちが知っている大豆です。かたい  
大豆は、そのままでは食べにくく、消化も  
よくありません。そのため、昔からいろい  
ろ手をくわえて、おいしく食べるくふうを  
してきました。

5



消化

消化  
けす

育つ

育つ  
はぐくむ

大豆

大豆  
まめ

新漢字

160  
ページ



いちばん分かりやすいのは、大豆をその形のままいたり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。いると、豆まきに使う豆になります。水につけてやわらかくしてからにると、に豆になります。正月のおせちりょうりに使われる黒豆も、に豆の一つです。に豆には、黒、茶、白など、いろいろな色的大豆が使われます。

次に、こなにひいて食べるくふうがあります。もちやだんごにかけるときなこは、大豆をいって、こなにひいたものです。

また、大豆にふくまれる主なえいようを取

5



とる  
シユ  
取り出す

り出して、ちがう食品にするくふうもあります。大豆を一ばん水にひたし、なめらかなになるまですりつぶします。これに水をくわえて、かきまぜながら熱します。その後、ぬのを使ってなかみをしぼり出します。しぼり出したしるににがりというものをくわえると、かたまつて、とうふになります。

さらに、目に見えない小さな生物の力をかりて、ちがう食品にするくふうもあります。ナットウキンの力をかりたのが、なっとうです。おした大豆にナットウキンをくわえ、あたたかい場所に一日近くおいて作ります。

5



コウジカビの力<sup>ちから</sup>をかりたものが、みそやしょうゆです。みそを作るには、まず、おした米<sup>こめ</sup>か麦<sup>むぎ</sup>にコウジカビをまぜたものを用意<sup>ようい</sup>します。それと、しおを、にてつぶした大豆<sup>だいず</sup>にくわえて、まぜ合わせます。ふたをして、風通<sup>かぜとお</sup>のよい暗い<sup>くら</sup>所に半年<sup>はんとし</sup>から一年<sup>いちねん</sup>の間<sup>あいだ</sup>においておくと、大豆<sup>だいず</sup>はみそになります。しょうゆも、よくにた作り<sup>つく</sup>方をします。

これらのほかに、とり入れる時期<sup>じき</sup>や育て方<sup>そだかた</sup>をくふうした食べ方<sup>たかた</sup>もあります。ダイズを、まだわかくてやわらかいうちにとり入れ、さやごとゆでて食べるのが、えだ豆<sup>まめ</sup>です。また、

ダイズのたねを、日光<sup>にっこう</sup>に当てずに水<sup>みず</sup>だけをやって育てると、もやしができます。

このように、大豆<sup>だいず</sup>はいろいろなすがたで食べられていきます。ほかの作物<sup>さくもつ</sup>にくらべて、こんなに多く<sup>おお</sup>の食べ方<sup>たかた</sup>がくふうされてきたのは、大豆<sup>だいず</sup>が味<sup>あじ</sup>もよく、畑<sup>はたけ</sup>の肉<sup>にく</sup>といわれるくらいたくさんのえいようをふくんでいるからです。

そのうえ、やせた土地<sup>とち</sup>にも強く<sup>つよ</sup>、育てやすいことから、多く<sup>おお</sup>のちいきで植<sup>う</sup>えられたためでもあります。大豆<sup>だいず</sup>のよいところに気づき、食<sup>しょく</sup>事に<sup>じ</sup>取り入<sup>い</sup>れてきた昔<sup>むかし</sup>の人々<sup>ひとびと</sup>のちえにおどろかされます。



時期<sup>キ</sup>  
キ

畑<sup>はたけ</sup>  
はたけ

国分<sup>こくぶん</sup>牧衛<sup>まきえ</sup>  
一九五〇年、岩手<sup>いわて</sup>県<sup>けん</sup>生まれ。農学者<sup>のうがくしゃ</sup>。  
ダイズやイネのけんさゆうをしている。





見通しをもとう



と問いをもちよう

大豆がすがたをかえてできたものの中で、あなたがいちばんおどろいたものはどれですか。それは、どうしてですか。

○終わり  
おわる  
しゅう



もくひよう

筆者のせつめいのしかたのくふうを見つけたら読み、見つけたくふうについて考えたことを発表しよう。

・図や表を使って、れいを整理する。  
・それぞれの段落の中心となる言葉や文（いちばん大事な言葉や文）を、たしかめながら読む。

とらえよう

○文章全体を、「はじめ」「中」「終わり」に分け、この文章の話題をたしかめよう。①

○筆者が「中」であげている具体的なれいを、ノートに整理しましょう。②

○「すがたをかえる大豆」には、「はじめ」に「問い」がありません。「問い」を入れるとしたら、どこに、

1 文章の組み立て	はじめ 中 終わり	話題を、おおまかにしめしている。 具体的なれいをあげて、せつめいしている。 全体をまとめている。
2 ノートのれい	段落 3	おいしく食べるくふう その形のままだったり、にたりして、やわらかくする。 食品 ・豆まきの豆 ・に豆

ふかめよう

どのような文を入れますか。

○「中」の書かれ方について考えよう。

・それぞれの段落の中心となる文は、どこにあるか。

・どんな順序で、れいをあげているか。

まとめよう

○筆者のせつめいのしかたには、どのようなくふうがあるでしょうか。次のことから考えよう。

・文章全体の組み立てと、それぞれの段落の組み立て  
・言葉の使い方  
・写真の使い方 など

○筆者のせつめいのしかたのくふうについて、考えたことを発表しよう。

ひろげよう

○いろいろな食品にすがたをかえる食べ物についての本を読み、感想を友だちにつたえよう。③

・はじめて知ったこと、ほかの人に知らせたいこと  
・せつめいのしかたで分かりやすいところ

いわたし

3 食べ物について書かれた本

すがたをかえる食べものずかん

米・麦からつくる食べ物

野菜・くだものからつくる食べ物



たいせつ  
話題と、れいの書かれ方を  
考えながら読む

○題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。  
○「中」のれいと話題とのつながりから、それぞれの段落の中心となる言葉や文を考える。  
○れいをあげる順序や、写真の使い方など、筆者のれいの書き方のくふうを見つける。



# 食べ物もののひみつを教おしえます

51ページの学習がくしゅうで、食べ物ものについての本ほんを読よみましたね。きょうみをもったものについて、せつめいする文章ぶんしょうを書かき、友ともだちと読よみ合あいましょう。



## と問いをもとう

大豆だいずのように、すがたをかえて食品しょひんのざいりょうになる食べ物ものには、どんなものがありましたか。人に教おしえたいと思おもったのは、どんなものですか。

5



## もくひょう

「すがたをかえる大豆だいず」で見つけたせつめいのくふうを使つかって、読よむ人に分わかりやすと思おもってもらえるよう文章ぶんしょうを書かこう。

・図ずや表ひょうを使つかって、調しらべたことを整せい理する。  
・ないようのままとりごとに段落だんらくを分わけるなど、組くみ立たてをくふうする。

## ① えらんだざいりょうについて、調しらべて整せい理しよう。

取とり上あげるざいりょうを一ひとつえらび、本ほんを読よみ返かえすなどして、調しらべましょう。調しらべたことは、図ずや表ひょうで整せい理しましょう。

## ② 組くみ立たてと、れいの書かき方かたを考かんえよう。

「はじめ」「中なか」「終おわり」に分わけて、組くみ立たてを考かんえましょう。  
▼組くみ立たてメモを作つくっている原はらさんへの助言じょげんを考かんえましょう。

5

○調しらべたことを整せい理するときは  
図ずや表ひょうにして、まとめましょう。  
れい  
ざいりょう——米こめ  
おいしく食たべるくふう 食しょく品ひん  
・その形かたちのままたく 食しょく品ひん  
・こなにする 白しら玉たま  
・ごはん

5

## ✓ 組くみ立たてを考かんえるときは

- 「はじめ」「中なか」「終おわり」に分わけて、書かくことを考かんえる。
- まとまりごとに段落だんらくを分わける。
- ないように合あったれいをえらぶ。
- れいをあげる順じゆん序じょを考かんえる。

10

お終 <small>しま</small> わり	なか	はじめ
・まとめ	・食品 <small>しょひん</small> のれい ごはん 白 <small>しら</small> 玉 <small>たま</small> もち	・ここでせつめいする ざいりょうについて——米 <small>こめ</small>

10



原はらさん

白しら玉たまともち、どっちを先さきにしようかな。

ほかに、大だい事じだと思おもったことはありますか。





### 3 せつめいする文章を書く。

考えた組み立てにそって、せつめいする文章を書きましょう。

#### いろいろなすがたになる米

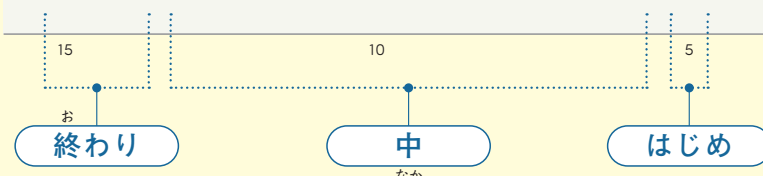
原 ゆうた

米には、いろいろな食べ方のくふうがあります。  
まず、米をその形のままたいて食べるくふうがあります。米を  
といて、水につけてからたくと、ごはんになります。  
次に、おして食べるくふうがあります。もち米という米を  
して、うすときねでつく、もちになります。もちつきのき  
いを使うこともあります。  
さらに、こなにしてお食べるくふうもあります。もち米をこ  
にしたものに、水を入れて練ります。それをゆでると、白玉  
になります。  
このように、米は、くふうされて、いろいろなすがたになっ  
て食べられているのです。



れいを  
あげるときのことば

- たとえば
- れいをあげると
- れいの一つ目は
- これらのほかに
- (ほかにも)



書いたら読み返し、まちがいないかなをたしかめましょう。

### 4 感想をつたえ合おう。

友だちと読み合って、文章のよいところをつたえましょう。

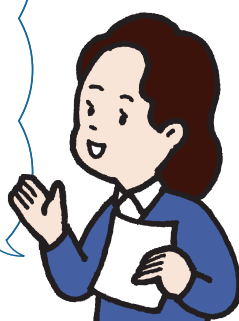
#### 書き方について

れいが整理して書かれていて、米の食べ方のくふうがよく分かった。



#### ないようについて

米から、どうやって白玉ができるか、ていねいに調べてあった。



たいせつ

分かりやすい組み立てを  
考える

- 「はじめ」で話題をしめし、ないようのまとまりごとに、段落を分ける。
- つたえたいことに合ったれいをえらび、読む人に分かりやすい順序を考える。



いかそう

社会や総合的な学習の時間などで、調べたことをせつめいするときには、どんなれいを、どんな順序であげるかを考えましょう。



ふりかえろう

知る  
読む  
書く  
つなぐ

読み取ったことや調べたことを、どのように整理しましたか。  
「すがたをかえる大豆」を読んで、どんなせつめいのくふうに気づきましたか。  
気づいたくふうや文章の組み立てを、自分の文章にどうかしましたか。  
せつめいする文章を読んだり書いたりするとき、どんなことに気をつけたいですか。

# ことわざ・故事成語



ことわざを集めて作った「いろはがるた」

「わらう門には福来たる」という言葉  
を耳にしたことはありませんか。この言葉  
には、いつもにこにこわらってくらし  
ている人のもとには、しぜんとよいこと  
がやって来るといふ意味があります。  
このように、生きていくうえでのちえ  
を、みじかい言葉や言い回しで表したも  
のを、ことわざといいます。

5

新漢字  
160ページ

福 フク

急 いそぐ  
キユウ

早起 おき  
おきる  
おこる  
おこす

苦 苦  
くるしい  
くるしむ  
くるしめる  
にがいに

▼ 次のことわざの意味を、国語  
辞典やことわざの本を使って調  
べましょう。ことわざの本で調  
べるときは、目次やさくいんを  
使いまししょう。

5

善は急げ



わかいときの苦労は  
買ってもしよ



犬も歩けば  
ぼうに当たる



親しき仲にも  
れいぎあり



ちりもつもれば  
山となる



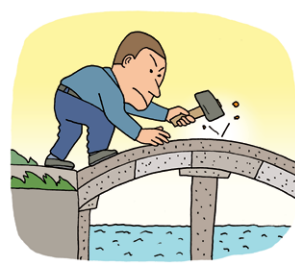
さるも木から  
落ちる



早起きは  
三文の徳



石橋を  
たたいてわたる





ことわざに「たみじかい言葉で、中国につたわる古い出来事や物語などが元になつてできた言葉」を、**故事成語**といいます。

「知ると楽しい『故事成語』」  
152ページ

## 五十歩百歩



**意味** 多少のちがいはあるものの、大きなちがいではないこと。  
(孟子という人物が王様にした、たとえ話が元になつてできた言葉。)



5

故事成語には、「矛盾」「推敲」「漁夫の利」など、今でも使われている言葉がたくさんあります。意味とともに、どのような由来があるのかも調べてみましょう。

・多  
少

ことわざや故事成語の中には、じだいに合わなくなつたものや、使い方によつて相手をいやな気持ちにさせるものもあります。意味をよく考えて、気をつけて使いましょう。

## ことわざ辞典を作ろう

グループで、ことわざ辞典を作ってみましょう。

① すきなことわざを、一人三つずつえらぶ。

② カードに、ことわざと意味を書く。そのことわざを使った文も考える。

### ことわざを使った文のれい

・友だちとの待ち合わせには、おくれないうようにしたい。親しき仲にもれいぎありだ。

③ みんなのカードを集め、どのような順でとじるかを相談し、本にする。



この本、読もう

ことわざや故事成語について書かれた本や辞典を読んで、おもしろいと思う言葉さがしてみましょう。

### ことわざ絵本



まんがで学ぶ  
故事成語



小学生のまんが  
ことわざ辞典

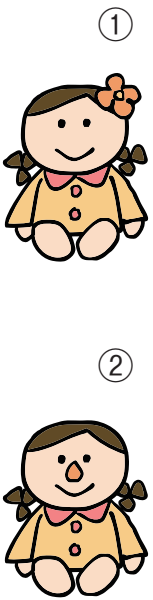


待ち合わせ  
相談  
ダイ  
マッ  
ダン

# 漢字の意味

人形にはなをつける。

右の文を読んで、左の絵のどちらを思  
うかべますか。



「はな」という言葉を漢字で書けば、  
どちらの意味か、すぐに分かります。  
人形に①花をつける。②鼻をつける。  
漢字は、それだけで意味も表します。  
同じ発音の言葉でも、意味がちがえば、  
使われる漢字がちがってきます。

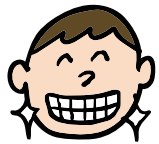
5

1

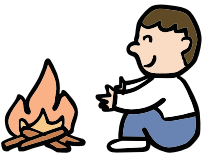
絵を見て、線のついた言葉に当  
てはまる漢字を書きましょう。

① はがきれいだ。

歯



② ひに当たる。



162 ページ

5

新漢字

160 ページ

鼻

はな

歯

は し

交ぜる

中央

オウ

二階

カイ

次の二つの文を読んでみましょう。ど  
ちらの文が読みやすいですか。

- ・ はははははじょうぶです。
- ・ 母は歯はじょうぶです。

漢字とかなを交ぜて書くと、言葉の意  
味が分かり、文が読みやすくなります。

5

2

次の文の□には、( ) の中のど  
ちらが当てはまるでしょうか。

- ① カイ (界・回)
- ・ 中央図書館の二階の部屋には、  
世□地図がはってある。
- ・ 今朝、おじは、二□目の海外旅  
行に出かけた。

10

3

「これまでに習った漢字」(154 ページ)  
から、同じ読み方で、意味のちがう  
漢字を見つけましょう。そして、そ  
れぞれの漢字を使って、みじかい文  
を作りましょう。

- ② キシヤ (汽車・記者)
- ・ 委員会の仕事について、学級新  
聞の□からインタビューをう  
けた。
- ・ 昭和のはじめの駅の様子や、  
の仕組みについて教わる。



- ③ カジ (家事・火事)
- ・ 山□の消火作業を行う。
- ・ □のてつだいで、じやがいもの  
皮むきと皿あらいをする。

162 ページ

10

5

委員会

イ  
ゆだねる

学級

キユウ

昭和

シヨウワ

駅

エキ

教わる

皮むき

ヒ  
かわ

皿あらい

さら

部屋

今朝



★ 声に出して楽しもう

# 短歌を楽しむ

声に出して読み、言葉の調子やひびきを楽しみましょう。気に入ったものは、おぼえて言ってみましょう。

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で作られた短い詩です。短歌の三十一音の中には、しぜんの様子や、そこから感じられること、心に思ういろいろなことなどが表されています。

むしのねも のこりすくなに なりにけり  
よなよなかぜの さむくしなれば

良寛

虫の鳴き声もあまり聞こえなくなってきたなあ。夜ごとに  
ふく風が寒くなるので。

秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

藤原敏行

秋風の吹きにし日より音羽山峰のこずゑも色づきにけり 紀貫之

秋風がふき始めたその日から、音羽山のちようじようで  
は、木のえだの先も色づき始めていたのだなあ。

奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき 猿丸大夫

奥深い山で紅葉を踏み分けながら鳴いている鹿の声を聞  
くときこそ、秋の悲しさを感じるものだ。

新漢字 161ページ  
短歌 タン  
短歌は、一首、二首  
というように、「首」  
を使って数えます。





「三年とうげ」には、昔から、ある言  
 いたえがあります。どんな言いたえ  
 なのでしょう。そして、このとうげで、  
 どんなことが起こるのでしょうか。

## 三年とうげ

さん ねん



### 読む

登場人物の行動や気持ちをとらえて、  
 えらんだ民話をしようかいしよう

### これまでの学習

- 登場人物がどのようにへんかしたかを考える  
 (まいごのかぎ) ...
- 場面をくまらながら読み、感想をもつ  
 (ちいちゃんのかげおくり) ...

30 ページ

90 ページ



### 漢字の広場

4

2年生で習った漢字

絵の中の町に住んでいるつもりで、町の  
 様子をせつめいする文を書きましよう。  
 わたしの家は、町の北の方にあります。  
 家のそばの市場は、いつも活気があります。



# 三年とうげ<sup>さんねん</sup>

李<sup>リ</sup>錦<sup>クム</sup>玉<sup>オギ</sup> 作<sup>さく</sup>  
朴<sup>バク</sup>民<sup>ミン</sup>宜<sup>ニ</sup> 絵<sup>え</sup>

あるところに、三年とうげとよばれるとうげがありました。

あまり高<sup>たか</sup>くない、なだらかなとうげでした。

春<sup>はる</sup>には、すみれ、たんぽぽ、ふでりんどう。とうげからふもとまでさきみだれました。れんげつつじのさくころは、だれだつてため息<sup>いき</sup>の出<sup>で</sup>るほど、よいながめでした。

秋<sup>あき</sup>には、かえで、がまずみ、ぬるでの葉<sup>は</sup>。とうげからふもとまで美しく色<sup>いろ</sup>づきました。白<sup>しろ</sup>いすすきの光<sup>ひか</sup>るころは、だれだつてため息<sup>いき</sup>の出<sup>で</sup>るほど、よいながめでした。



5

美<sup>うつく</sup>しい<sup>うつくしい</sup>

ため息<sup>いき</sup>

新<sup>しん</sup>漢<sup>かん</sup>字<sup>じ</sup>  
161 ページ



三年とうげには、昔から、こんな言いつたえがありました。

「三年とうげで 転ぶでない。」

三年とうげで 転んだならば、

三年きりしか 生きられぬ。

長生きしたけりや、

転ぶでないぞ。

三年とうげで 転んだならば、

長生きしたくも 生きられぬ。」

ですから、三年とうげをこえるときは、みんな、

転ばないように、おそろおそろ歩きました。

ある秋の日のことでした。一人のおじいさんが、

となり村へ、反物を売りに行きました。そして、

帰り道、三年とうげにさしかかりました。白いす

すきの光るころでした。おじいさんは、こしを下

ろしてひと息入れながら、美しいながめにうっと

りしていました。しばらくして、

「こうしちゃおれぬ。日がくれる。」

おじいさんは、あわてて立ち上がると、

「三年とうげで 転ぶでないぞ。」

三年とうげで 転んだならば、

三年きりしか 生きられぬ。」

と、足を急がせました。

お日様が西にかたむき、夕やけ空がだんだん暗  
くなりました。



。転ぶ

反物

着物を作るための  
ぬの。

写真



テン  
ころがる  
ころがる  
ころがす  
ころぶ





ところがたいへん。あんなに気をつけて歩いていたのに、おじいさんは、石につまづいて転んでしまいました。おじいさんは真っ青になり、がたがたふるえました。

家にすっとなでいき、おばあさんにしがみつき、おいおいなきました。

「ああ、どうしよう、どうしよう。わしのじゅみようは、あと三年じゃ。三年しか生きられぬのじゃあ。」

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。お医者をやぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきつきりで看病しました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

◆真っ青

心配

ハイ  
くばる

重い

ジュウ  
チヨウ  
え  
おもい  
かさねる  
かさなる

飲む

イン  
のむ

お医者

イ

病気

ビョウ  
やまい



そんなある日のこと、水車屋のトルトリが、みまいに来ました。  
「おいらの言うとおりにすれば、おじいさんの病気はきつとなお  
るよ。」

「どうすればなおるんじや。」



おじいさんは、ふとんから顔を出しました。

「なおるとも。三年とうげで、もう一度転ぶんだよ。」

「ばかな。わしに、もっと早く死ねと言うのか。」

「そうじゃないんだよ。一度転ぶと、三年生きるんだろ。二度転べば六年、三度転べば九年、四度転べば十二年。このように、何度も転べば、ううんと長生きできるはずだよ。」

おじいさんは、しばらく考えていましたが、うなずきました。

「うん、なるほど、なるほど。」

そして、ふとんからはね起きると、三年とうげに行き、わざとひっくり返し、転びました。

このときです。ぬるでの木のかげから、おもしろい歌が聞こえてきました。



水車屋  
水車を使い、米や麦をこなにひく仕事をしている人。



「えいやら えいやら えいやらや。  
一ぺん転べば 三年で、  
十ぺん転べば 三十年、  
百ぺん転べば 三百年。  
こけて 転んで ひざついて、  
しりもちついて でんぐり返り、  
長生きするとは、こりや めでたい。」  
おじいさんは、すっかりうれしくなり  
ました。

ころりん、ころ  
りん、すってんころ  
り、ぺったんころりん、  
ひよいころ、ころりんと、  
転びました。あんまりうれし  
くなったので、しまいに、とう  
げからふもとまで、ころころころ  
りんと、転がり落ちてしまいました。  
そして、けろけろけろっとした顔をして、  
「もう、わしの病気はなおった。百年も、  
二百年も、長生きができるわい。」  
と、にこにこわらいました。



こうして、おじいさんは、すっかり元気になり、おばあさんと二人なかよく、幸せに、長生きしたということです。

。幸せ

コウ  
さいわい  
しあわせ

ところで、三年とうげのぬるでの木のかげで、

「えいやら えいやら えいやらや。」

一ぺん転べば 三年で、

十ぺん転べば 三十年、

百ぺん転べば 三百年。

こけて 転んで ひざついて、

しりもちついて でんぐり返り、

長生きするとは、こりや めでたい。」

と歌ったのは、だれだったのでしょうか。



リクムオギ  
李錦王

一九二九～二〇一九  
年。大阪府生まれ。  
作家。「へらな稲

たば」「かみにしやく  
なげの花」などの作  
品がある。

## この本、読もう

世界には、古くから語りつたえられてきた民話や昔話がたくさんあります。いろいろな国やちいきのお話を読んでみましょう。

りこうな子ども  
アジアの昔話



シンドバットの冒険



天の火をぬすんだウサギ



クモのアナンシ

ジャマイカのむかしばなし



スリランカの昔話  
ふしぎな銀の木



くいしんぼうシマウマ





見通しをもとう



問いをもとう

「三年とうげ」を読んで、あなたが面白いと思ったところはどこですか。それは、どうしてですか。



もくひょう

おもしろいところを見つけながら民話を読み、自分がえらんだ民話を書き合ひしよう。

- おもしろいと思ったところを引用する。
- 出来事や登場人物の行動、言葉の使用などに着目して読む。

とらえよう

- 次のことについて、ないようや書かれ方をたしかめよう。
- 「三年とうげ」はどんなところか。
- どんな人物が出てくるか。
- どんな出来事が起こり、その後、どうなったか。
- 出来事が起こったときや、その後の登場人物の行動や気持ち、考え方は、どうだったか。

ふかめよう

- 「おじいさん」は、この民話の中で、どうかかりましたか。そのきっかけは、何でしたか。

まとめよう

- この民話でもおもしろいと思ったのは、どこですか。
- 出来事
- 登場人物の行動や気持ち、考え
- 言葉の使われ方や、文の調子 など
- 民話をえらんで、おもしろいところを見つけながら読みましょう。そして、その部分を引用しながら民話をしうかいする文章を書きましよう。

ひろげよう

- 友だちが、民話のどこにもおもしろさを感じたのかにきをつけて、書いた文章を読み合ひましよう。



ふりかえろう

- 知る
  - 読む
  - つなぐ
- おもしろいところを引用するとき、どのようなことに気をつけましたか。
- どのようなことに着目して、おもしろいところを見つけましたか。
- 友だちがしうかいした民話の中で、どれを読んでみたいと思いましたか。

1 言葉に着目しよう

- 行動や様子を表す言葉から、登場人物のへんかを考えましよう。
- 「がたがたふるえました」(70ページ3行目)
- 「ふとんからはね起きると」(73ページ9行目)
- 「ころころりん」と(75ページ7行目)
- 「けろけろけろつとした顔」(75ページ9行目)

2 しうかいする文章のれい

ぼくがしうかいするお話は、「ほしになつたりゆうのきば」です。これは、中国の民話です。

りゆうのけんかでやぶれてしまった天のさけめを、サンというゆうかなな人物がふさぎに行くお話です。

ぼくがおもしろいと思ったのは、サンが、ひつじのせなかにのつて、天に向かつていくところです。「ひつじのからだに真っ白なつばさはえて、さつと天へとびたつた」というふしぎな出来事が起こるところに、わくわくします。

ぜひ読んでみてください。

引用するときは、かぎ「」を使うんだよね。



おもしろいと思ったところ あらすじ 題名と、どこの国のお話か



たいせつ

ないようや  
書かれ方に着目して読む

○ 次のようなことに着目すると、お話のおもしろさを見つけることができる。

- 登場人物の行動
- 登場人物の様子と、そのへんか
- 起こった出来事と、それがどうなったか
- 言葉の使い方や、文の調子



いかそう

お話の一部を引用しながら  
しよいかいすると、おもしろ  
さが、ほかの人につたわりや  
すくなります。

10

5



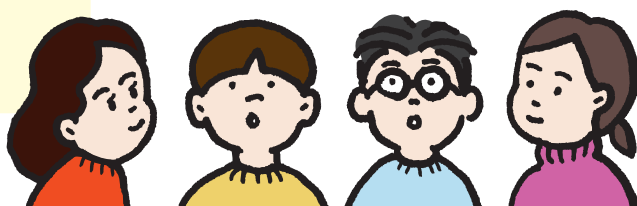
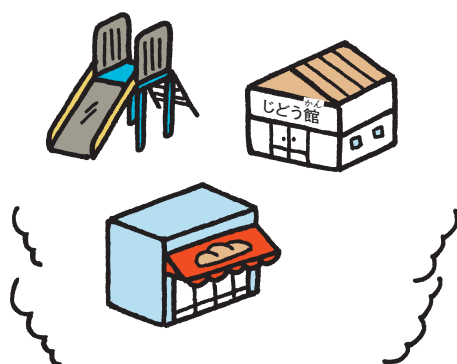
書く

しよいかいする文章を書き、感想をつたえ合おう

わたしの町のよいところ

あなたの住む町には、  
どんな場所や物がありま  
すか。あなたの町のよい  
ところを文章に書いて、  
しよいかいしましょう。

5



と問いをもとう

あなたは、町のどんなところが好きですか。  
それは、あなたにとって、どんなものですか。

● たしかめよう

「三年上までに学んだこと」……… 9 ページ  
「書くことを考えるときは」……… 128 ページ

● 見通しをもとう

① しよいかいするものを決める。

② 組み立てを考える。

③ しよいかいする文章を書く。

④ 感想をつたえ合ふ。

● ふりかえろう





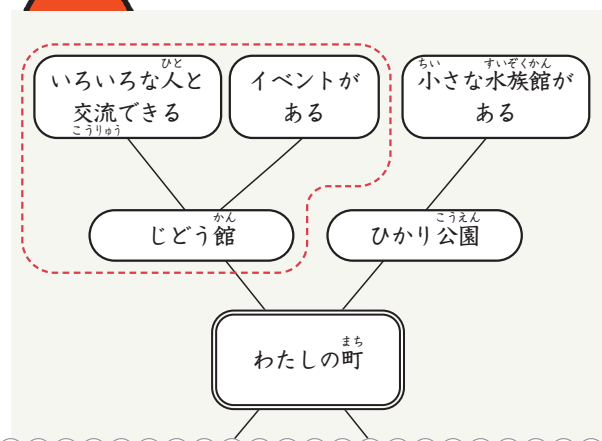
## もくひょう

町のよいところをしようかいする文章を書いて、読み合おう。そして、たがいの文章のよい点をつたえ合おう。

### ① しようかいするものを決めよう。

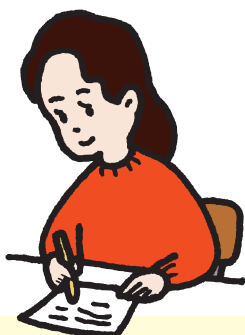
しようかいしたいものと、しようかいしたい理由を、図を使ってできるだけたくさん書き出しましょう。その中から、書くことをえらびましょう。

じどう館をしようかいしたいな。分からないこともあるから、調べてみよう。



### ② 組み立てを考えよう。

「水野さんの組み立てメモ」をさんこうにして、何を、どのような順序で書くかを考えましょう。



## みずの 水野さんの組み立てメモ

### はじめ

しようかいするもの  
じどう館

せつめい

- わかば駅のすぐ近く
- 午前9時から午後6時まで

### 中

しようかいしたい理由

① 楽しいイベント

写真

- とうげい教室のたいけん

② いろいろな人との交流

- 田中さんとの会話

### お 終わり

まとめ・よびかけ

じどう館に行ったことがない人は、ぜひ行ってみたい。

### ③ しようかいする文章を書こう。

しようかいするものと、しようかいしたい理由が、読む人に分かりやすくなるように書きましょう。

### 学びをいかそう

「書くことを考えるときは」(上128ページ)で学んだことをいかしましょう。

- 思いついたことを、線でつなぎながら書く。
- くわしく書き出したことの中から、いちばんつたえたいことをえらぶ。

水族館  
交流  
新漢字  
161ページ

### 組み立てを考えるときは

- 「はじめ」「中」「終わり」のままとりに分けて、書きたいことを考える。
- つたえたいことが分かりやすくなるように、「中」に書くことの順序をくふうする。

「食べ物のひみつを教えます」

52ページ

### しようかいする文章を書くときは

- しようかいするものと、しようかいしたい理由を分けて書く。
- つたえたいことに合った写真や絵を入れる。

水野さんが書いた、しょうかいする文章

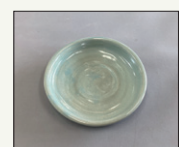
いつでも楽しい じどう館  
水野 風花

わたしがしょうかいしたいのは、じどう館です。じどう館は、わかば駅のすぐ近くにあり、午前9時から午後6時まで開いています。

このじどう館をしょうかいしたい理由は、二つあります。

一つは、楽しいイベントがたくさんあるからです。じどう館では、工作教室やダンス教室などが開かれます。

わたしは、先週、とうげい教室にさんかして、お皿を作りました。先生が、力の入れ具合をていねいに教えてくれたので、上手にできました。



とうげい教室は、みなさんにもおすすめです。

もう一つの理由は、いろいろな人と交流できるからです。このじどう館は、高校生までならだれでもりようできるので、年れいや学校がちがう人もいます。きのう、となりの学校の田中さんと話したら、人気のある遊びがちがっていて、びっくりしました。

いつもとちがう友だちと交流すると、新しい発見があります。

じどう館に行ったことがない人は、ぜひ一度、行ってみてください。

はじめ

中

終わり

4 感想をつたえ合おう。

書いた文章を読み合い、感想をつたえ合ひましょう。

感想のれい

とうげい教室で、たいけんが具体的に書かれていたので、みりよくがよかったです。

理由が二つあることが、はじめに書かれていて、分かりやすかったです。

感想を聞いて考えたことのれい

理由の書き方がいいと言ってもらった。「中」に書きたいことがいくつあるときは、この書き方を、また使おう。

どのように感想をつたえるとよいかを、考えましょう。



ふりかえろう

知る書く つなぐ

しょうかいしたい理由を、どのようにえらびましたか。友だちの感想を聞いて、自分の文章のどんなところがよいと思ひましたか。これからしょうかいする文章を書くときには、どんなことに気をつけたいですか。



たいせつ

書いた文章の感想をつたえ合う

- つたえようとしていることが分かりやすく書かれていゐるかなど、ないようや書き方について思ひつたことをくわしくつたえる。
- 感想をつたえ合うことで、自分の文章の、ないようや書き方のよい点を見つける。



いかそう

自分や友だちの文章から見つけたよいところを、次に書くときにいかしましょう。



感想をつたえ合うときは

- 書いた人がつたえようとしていたことをたしかめる。
- ないようや組み立て、書き方などに着目して、よい点や分かりやすいところをつたえ合う。
- 友だちの感想を聞いて、自分の文章のよい点を考える。



感想をつたえるときの言葉

- という書き方が、
- が具体的に書かれていたので、
- という言葉から、

ほかに、大事だと思ひたことはありますか。

高校生





# 冬の暮らし

ゆき

川崎 洋

はつゆき ふった  
こなゆき だった  
くつの下で きゅつきゅとないた

どかゆき ふった  
のしのし ふって  
ずんずん つもり  
ねゆきに なった

べたゆき ふって  
ぼたゆき ふって  
ざらめゆきになつて  
もうすぐ 春だ

銀世界



生活の中で、冬のしさを感ずることはあります。みの回りで見つけた、冬を感じたものについて書きましょう。

わたしは、寒いきせつには、ゆたんぽを使っています。ねる前におゆを入れて、ふとんの中で使います。つめたい足を温めてくれるので、よくねれます。

寒い冬をあたたかくすごすためのくふうです。

ストーブ

こたつ



冬は、土の中で育つやさいがおいしいといわれています。

れんこん

大根

にんじん

かぶ





詩しの楽たのしみ方かたを見みつけよう

それぞれの詩に、どのようなふうがあるのかを、  
かんがえながら読みましょう。

詩しのくふうを楽たのしもう

和田 誠わだ まこと

からはおもくて  
たくさんあるくと  
つかれるけれど  
むりしてたてた  
りっぱなおうち

はせみつこ

ことばはつなぐ  
とおくとちかく  
ばらとみつばち  
だれかとだれか  
いまとむかし  
すきときらい  
きみとわたし

あした

石津 ちひろ

たいこ

谷川 俊太郎

あしたのあたしは  
あたらしいあたし  
あたらしいあたし

と と と  
と と と  
ん ん ん  
こ と こ  
と ん と  
ん

あたしのあしたは  
あたらしいあした  
あたらしいあした

と と と と  
こ ん こ ん  
と と と と  
こ と ん と  
と ん と ん  
ん ん ん ん

ど こんど こんど こんど  
 たい こと たい たい  
 どん どん どん どん  
 どこ へ いく



# なみ

内田 麟太郎

へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ  
 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ

うみがわらっている

10

5

# かいだん

関根 栄一

かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん  
 かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん かいだん

15

10

5

## 学習

● 88〜90ページの詩の中から好きな詩を  
 えらび、おもしろいと思ったことについ  
 て、友だちと話ししましょう。

## 言葉に着目しよう

次のようにして、詩のくふうを見つけてみよう。  
 ・それぞれの行のさいしょの字を、つなげて読む。  
 ・声に出して読み、言葉のリズムやひびきをたし  
 かめる。

・文字や、詩全体の形を、絵のように見る。

10

5

## 詩を作ろう

おもしろいと思ったくふうを  
 使って、あなたも詩を作ってみま  
 しょう。国語辞典で言葉をさがし  
 てもいいですね。

「なみ」は、文字の  
形とならべ方がおもしろいね。

「たいこ」は、音読  
してみると、くふうが  
分かって楽しいね。

ぼくの名前をかくした  
詩を作ってみようかな。

ひびきのにている言葉  
を使って、詩を作ろう。



ことばあそび  
うた



この本、読もう  
かさぶたつて  
どんなぶた



# 書くときに使う 四まいの絵を使って

「こんな物語を書きたい。」とおもっても、どう書けばよいか、まようことはありませんか。ここでは、物語を書くときの組み立てについて考えましょう。

## 1 物語のきほん的な組み立てをたしかめよう。

おわり	中	はじめ	まとまり
4 むすび	3 出来事(じけん)が かいかいけつする	2 出来事(じけん)が 起こる	1 始まり
・その後、どうなったか など	・出来事が起こるきっかけ ・起こった出来事と、それがどうへんかしていくか ・物語が進むにつれて、登場人物の気持ち ちがどうかわっていくか など	・登場人物、時(きせつ・時間)、場所など	書かれていること

10

5



「三年とうげの言いつたえのことが書いてあったのは、1 始まりだね。」

「2 出来事が起こる」は、「おじいさん」が――。



物語の多くは、上の表のような組み立てで書かれています。長い物語では、2と3に、いくつもの出来事が書かれることもあります。

「三年とうげ」(66ページ)が、どのような組み立てで書かれていたか、たしかめてみましょう。

5

2 どのような組み立てで書くかを考えよう。

組み立てを考えると、まず、書かないようかんたんに書き出します。次に、書き出したものを、1と4のどこに入れるかを考えます。

左の四まいの絵を自由にならべかえて、一つの物語を作ります。はじめに、それぞれの絵がどんな場面かを考え、かんたんに書き出しましょう。



5



## 物語を書くときの組み立て

○どんな出来事が起こるのかをそうぞうし、次のような組み立てで物語を考える。

- 1 始まり
- 2 出来事(じけん)が起こる
- 3 出来事(じけん)がかいかいけつする
- 4 むすび



## いかそう

みの回りの出来事を、ほかの人につたえるときにも、話の組み立てを考えましょう。

「たから島のぼうけん」 111ページ

15

10

5





## カンジーはかせの 音訓かるた

カンジーはかせが、音訓かるた大会を開きました。かるたの読みふだには、漢字の音と訓を使った、リズムのよい歌が書かれています。

遠足だ  
遠くに行けて  
うれしいな



1

カンジーはかせが作った歌を、声に出して読みましょう。

日記帳 三日ぼうずはそつぎようだ  
千代紙で 千羽のつるを おりました  
曲がる球 投げる投手 になりたいな  
石炭は もえるふしぎな 黒い石  
羊毛が ふわふわしてる 羊さん  
にらめっこ 勝負に勝ったうれしいな  
旅先の 宿で宿題 はかどらず  
昼食で どうふ一丁 食べました  
宮大工 大きな寺院 しゅうりする

5

10

新漢字  
161ページ

日記帳  
チヨウ

千代紙  
チヨウ

曲がる  
キョク

投げる  
トウ

投手  
シュ

石炭  
タン

2

カンジーはかせのように、漢字の音と訓を両方使った、リズムのよい歌を作りましょう。

- 口笛を ふくと遠くで 汽笛鳴り
- 助言へのお礼の言葉 ていねいに
- 上等のケーキを等しく 分けましょう
- 反対だ 反りが合わない 君とぼく
- 乗ったかな 出発進行 バスは行く

5

### 作り方

- ① どの漢字を使うかを決める。
- ② 漢字の読み方一つ一つについて、その読み方を使った言葉を集める。
- ③ 音読みを使った言葉と、訓読みを使った言葉の一つずつ使って、ひとつながりの文を考える。
- ④ リズムを整えて、かんせい。

10

5

羊毛  
ヨウ

宿  
シュク

昼食  
チュウ

一丁  
チヨウ

宮大工  
キョウ

寺院  
イン

お礼  
レイ

上等  
トウ

反対  
ハン

君  
クン

乗る  
ジョウ

のせる  
ノ



ありの行<sup>ぎょう</sup>列<sup>れつ</sup>

ありが<sup>ぎょうれつ</sup>行列を作る<sup>つく</sup>様子<sup>ようす</sup>を、見た<sup>み</sup>ことは  
 あります<sup>か</sup>。そのことについて<sup>しら</sup>調べた人<sup>ひと</sup>  
 がいます。どんなことが分<sup>わ</sup>かったので  
 しょうか。



よ  
読む

よかんが  
読んで考えたことをつたえ合おう

これまでの<sup>がくしゅう</sup>学習



文章全体の組み立てをとらえる  
 (文様・こまを楽しむ)  
 話題と、れいの書かれ方を考えながら読む  
 (すがたをかえる大豆)

51  
ページ



文章全体の組み立てをとらえる



ねんせい    なら    かんじ  
2年生で習った漢字

学校では、どんなことをしていますか。  
日記をつけるように書きましよう。

理科の時間に、かん電池を使って、じっけんをした。

かん電池



# ありの行列

大滝 哲也 文  
安田 尚樹 絵

夏になると、庭や公園のすみなどで、ありの行列を見かけることがあります。その行列は、ありの巣から、えさのある所まで、ずつとつづいています。ありは、ものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。

アメリカに、ウイルソンという学者がいます。この人は、次のようなじっけんをして、

ありの様子をかんさつしました。

はじめに、ありの巣から少しはなれた所に、ひとつまみのさとうをおきました。しばらくすると一ぴきのありが、そのさとうを見つけました。これは、えさをさがすために、外に出ていたはたらきありです。ありは、やがて、巣に帰っていきました。すると、巣の中から、たくさんのはたらきありが、次々と出てきました。そして、列を作って、さとうの所まで行きました。ふしぎなことに、その行列は、はじめのありが巣に帰るときに通った道すじから、外れていないのです。

•外れる

ありの行列が  
できる様子



庭

テイ  
にわ

新漢字

162 ページ





次に、この道すじに大きな石をおいて、あ  
りの行く手をさえぎってみました。すると、  
ありの行列は、石の所でみだれて、ちりぢり  
になってしまいました。ようやく、一ぴきの  
ありが、石の向こうがわに道のつづきを見つ  
けました。そして、さとうに向かつて進んで  
いきました。そのうちに、ほかのありたちも、  
一ぴき二ぴきと道を見つけて歩きだしました。  
まただんだんに、ありの行列ができていきま  
した。目的地に着くと、ありは、さとうのつ  
ぶを持って、巣に帰っていきました。帰ると  
きも、行列の道すじはかわりません。ありの

10

5

• 行く手

行列は、さとうのかたまりがなくなるまでつ  
づきました。

これらのかんさつから、ウイルソンは、はた  
らきありが、地面に何か道しるべになるもの  
をつけておいたのではないか、と考えました。  
そこで、ウイルソンは、はたらきありの体  
の仕組みを、細かに研究してみました。する  
と、ありは、おしりのところから、とくべつ  
のえきを出すことが分かりました。それは、  
においのある、じょうはつしやすいえきです。  
この研究から、ウイルソンは、ありの行列  
のできるわけを知ることができました。

10

5

• 細か  
研究

ケン  
キュウ





はたらきありは、えきを見つけると、道し  
るべとして、地面にこのえきをつけながら帰  
るのです。ほかのはたらきありたちは、その  
においをかいで、においにそって歩いていき  
ます。そして、そのはたらきありたちも、えき  
を持って帰るときに、同じように、えきを地  
面につけながら歩くのです。そのため、えき  
が多いほど、においが強くなります。

このように、においをたどって、えきの所  
へ行ったり、巣に帰ったりするので、ありの  
行列ができるというわけです。

おわたき てつや  
大滝 哲也  
一九二六～二〇二一  
年。東京都生まれ。  
動物学者。とくに、  
昆虫について研究し  
ていた。

## もっと読もう

文章を読んで、もっと知りたいことが出てきたときは、  
ほかのしりようを読むと明らかにすることがあります。  
次の文章を読んでみましょう。あなたの知りたいことは、  
書かれていますか。

まじ  
交わる

● においのある、とくべつのえきを出すの  
は、えきを持って帰るときだけか。

ありは、道しるべになる、においのあ  
るえきだけでなく、ほかにもいくつかの、  
においのあるえきを出して、なかまとつ  
たえ合っています。

たとえば、てきなどのきけんが近づい  
ていることを知らせるときに出すものや、  
なかまを集めるために出すものなどがあ  
ります。

● ちがう巣にすむ、同じしゅるいのありの  
行列が変わると、ありはまよわないのか。

同じしゅるいのありは、道しるべとな  
るえきのおいも同じです。しかし、道  
しるべのそばには、同じ巣のなかまがつ  
けたえきだと分かる、べつのおいもの  
こっています。そのにおいによって、な  
かまのこした道しるべをたどることが  
できます。ただ、時には、まちがってし  
まうこともあるようです。

やまおか りようへい  
(山岡 亮平 かんしゅう)

やまおか りようへい  
山岡 亮平  
一九四七～二〇二三  
年。京都府生まれ。  
応用昆虫学者。

見通しをもとう



問いをもとう

「ありの行列」を読んで、あなたはどんなことにきょうみを持ちましたか。友だちとあなたのきょうみには、どんなちがいがあるでしょうか。



もくひょう

文章を読んで考えたことをまとめ、友だちとつたえ合おう。

- せつめいのつながりを表す言葉に気をつける。
- 文章のないようやせつめいの進め方について、自分の考えをもつ。

とらえよう

- 「ありの行列」でせつめいされていることをたしかめましょう。
- 文章全体の「問い」と、それに対する「答え」
- ウイルソンが調べたことと分かったこと、そこから考えたこと

○段落ごとに、大事な言葉や文を見つけて、次の点

ふかめよう

- から、「ありの行列」に書かれていることを短くまとめましょう。
- ①
- ウイルソンがじっけんや研究をどう進めたか
- ありが行列を作る仕組み

まとめよう

- 「ありの行列」と「もつと読もう」(103ページ)を読んで、きょうみをもったことや、もつと知りたいこと、考えたことを文章にまとめましょう。
- ②

ひろげよう

- 書いた文章を友だちと読み合い、自分と同じところやちがうところを見つけて、つたえ合いましょう。



ふりかえろう

知る 読む つなぐ  
何について書かれた段落かをたしかめるとき、どの言葉に着目しましたか。  
はじめて読んだときと、くわしく読んだ後では、文章に対する見方はどうかわりましたか。  
同じ話題についての文章をいくつか読むことには、どんなよさがあると思いますか。

2 文章のれい

わたしは、「ありの行列」を読んで、ありがとくべつなえきを出すことにきょうみを持ちました。あらたちが、えきのおいをかいで歩くことで、行列ができるのだそうです。  
わたしは、もし行列が、ほかの巢のありのものと重なったらどうなるんだろうと、ぎもんに思いました。すると、「もつと読もう」に、同じ巢のなかまだと分かるにおいがあると書かれていました。  
今度、もっとくわしく書かれた本を読んでみたいと思います。







たいせつ

せつめいする文章を  
読んで、考えをもつ

- 読んで考えをもつためには、次のことを見つけながら読むとよい。
- ・ はじめて知って、おどろいたこと
- ・ 「どうしてだろう。」と、ふしぎに思ったこと
- ・ もっと知りたいと思ったこと
- 考えたことをつたえ合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目する。



いかそう

文章を読んで、もっと知りたいことが出てきたら、同じテーマについて書かれた、ほかの文章を読んでみましょう。

15

10

5



この本、読もう

科学読み物を読むと、虫や植物など、さまざまなもののふしぎを知ることができます。



まちはうけの生態学

筆者は、見事なかりをするアカオニグモのくらす草むらに出かけて、行動や様子をかんさつしました。

5



むしこぶ みつけた

木のえだについた、みのようなものや、葉のうらの風船みたいなもの。中には、何が入っているのでしょうか。

10



生きもののふしぎなお話  
なぜ? どうして? 編

昆虫や動物、植物など、みづかな生き物にまつわる、「なぜ」「どうして」に、研究者が答えます。

15

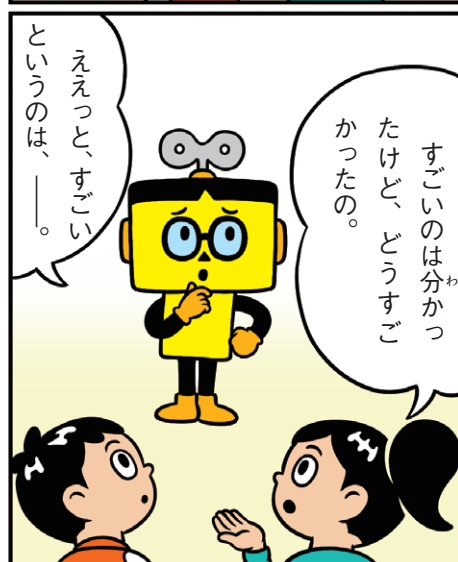
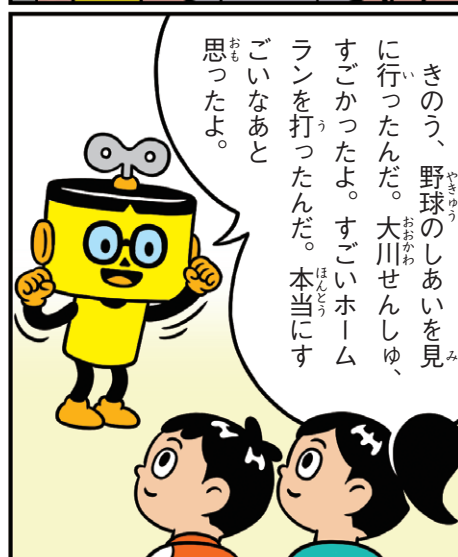
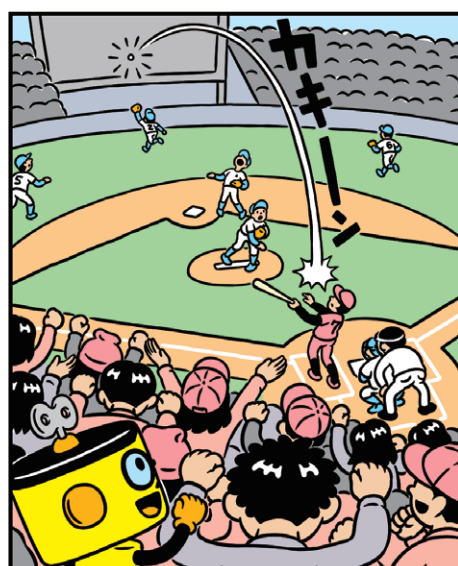


言葉

言葉について考えよう

つたわる言葉で表そう

言葉を学習している「ロボロボ」は、野球のしあいを見た感想を、友だちにつたえようとしています。



と問いをもとう

ロボロボがつたえたかったことが、うまくつた  
わらなかったのは、どうしてでしょうか。

打つ

新漢字

162 ページ

たいけんしたことや感じたことを、よりよくつたえるためには  
どうするとよいか、考えてみましょう。

### 様子や気持ちがつたわる言葉を使う

▼ ロボロボは、どのように話したらよいと思いますか。

「すごいホームラン」を、  
べつの言い方にしたらどう  
かな。



「すごい」が三回使われ  
ていたけど、どれも同じ意  
味なのかな。



### つたえたいことに合う言葉をえらぶ

にた意味を表す言葉でも、言葉から受ける感じがちがうことが  
あります。つたえたいことにぴったり合う言葉をえらびましょう。  
▼ 次の文は、それぞれ、受ける感じにどんなちがひがありますか。

① 友だちの言葉に、ときっとした。

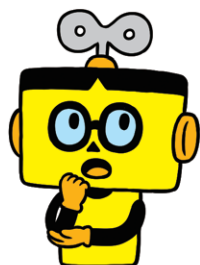
・ 友だちの言葉に、はっとした。

② 今日は、寒い一日だった。

・ 今日は、はだ寒い一日だった。

①は、どちらもおどろ  
いた気持ちを表す言葉だ  
けど、受ける感じがちが  
うな。

②は、「寒い」に「はだ」  
がついていると、思いうか  
ぶきせつがちがうよ。



使える言葉が多いと、よりぴったり合う言葉をえらぶことがで  
きます。次のようなきっかけをいかして、使える言葉をふやして  
いきましょう。

- ・ 辞典や本などで、知りたいことを調べているとき
- ・ 友だちの文章を読んでいるとき
- ・ 物語を読んでいるとき
- ・ 新しい言葉を知ったら、いろいろな場面で使ってみましょう。

10

5

### 様子や気持ちをつたえるときは

□ 表したい様子や自分の気持ちを、く  
わしく思い出す。

□ 表したい様子や自分の気持ちに合う  
言葉を考える。

□ つたえたいことを、相手がよくわしく  
思いうかべられるような言葉を使う。

ほかに、大事なことは  
あるかな。



○ 受ける

ジュ  
うける  
うかる

### つたえたいことに合う言葉をえらぶ ときは

□ にた意味の言葉から、つたえたい様  
子や気持ちを表すのにふさわしいと  
思う言葉をさがす。

□ 国語辞典や類語辞典を使って言葉を  
さがし、使える言葉をふやす。

ほかに、大事なことは  
あるかな。



5

5

108

109





## と問いをもとう

あなただったら、112ページの地図の中のどの道を通って、どんなぼうけんをしたいですか。

たから物をさがすぼうけんという、どんな物語が思いうかびますか。112ページのたから島の地図からそうぞうを広げて、楽しんで物語を書きましょう。



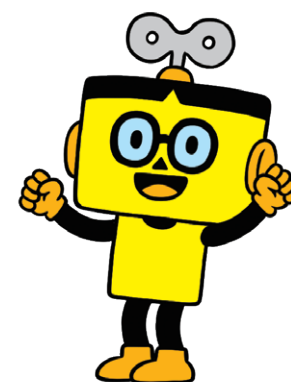
# たから島のぼうけん



## 書く

書き表し方をくふうして、物語を書こう

様子や気持ちをくわしく思い出したり、ぴったり合う言葉をえらんだりすると、よりよくつたわることが分かった。つたわる言葉で表すことは、自分にとっても、相手にとっても、大切なことなんだな。



## 相手につたわる文章を書こう

- 1 読む人が、様子や気持ちを思い浮かべられるように、言葉を選らんで文章を書く。
- 2 書き終わったら、ないようがつたわるような題名を考える。
- 3 友だちと読み合って、よくつたわる部分とそうでない部分を教えてもらう。友だちの文章を読むときには、どのような言葉で表しているのかに気をつける。

「言葉のたから箱」 165ページ

## ● たしかめよう

「三年上までに学んだこと」…… 9ページ  
「四まいの絵を使って」…… 92ページ

## ● 見通しをもとう

1 そうぞうした物語のないようを書き出す。

2 物語の組み立てを考える。

3 様子がよくつたわるように、物語を書く。

4 友だちの物語を読んで、感想をつたえる。

## ● ふりかえろう



もくひょう

ぼうけんの様子がよくつたわるように、書き表し方をくふうして、読む人が楽しめるような物語を書こう。

・場面や出来事、登場人物の様子、気持ちがよく分かる言葉をえらんで使う。  
・自分がそうぞうしたことが、読む人につたわるように、書き表し方をくふうする。

1 そうぞうした物語のないようを書き出そう。

これから、どんなぼうけんを始めますか。地図を見ながらそうぞうして、考えたことを書き出しましょう。



2 物語の組み立てを考えよう。

1で書き出したことを、下の1〜4の組み立てに当てはめて考えましょう。

3 様子がよくつたわるように、物語を書こう。

場面ごとに、まわりの様子、登場人物の気持ちや会話を考えましょう。とくに読む人を引きつけたい場面では、くわしくつたわるように、言葉をえらんで使いましょう。書いたら読み返して、分かりにくいところやまちがいをたしかめましょう。

○物語のないようを考えるときは

- ・ぼうけんするのは、どんな人物か。
- ・どの道をえらび、何と出会うか。
- ・どんな出来事（じけん）が起こり、どのようにかいつするか。
- ・どんなたから物を手に入れるか。
- ・その後、登場人物はどうなるか。

○学びをいかそう

「四まいの絵を使って」（92ページ）で学習した、物語の組み立て方をいかしましょう。

お	なか	はじめ
終わり	中	
4 むすび	3 出来事（じけん）が起ころ	2 出来事（じけん）が起ころ
		1 はじめ

✓ 言葉をえらぶときは

- にた意味の言葉をいくつか書き出して、よりぴったり合うものをえらぶ。
- 「——ような」「——みたいな」という、たとえを使う。
- 修飾語をくわえて、くわしくする。

（新漢字）  
たから島  
しま トウ



▼「物語のれい」の中から、場面や登場人物の様子などがよくつたわってくる書き表し方を見つけ、その理由を考えましょう。

○物語のれい

たから島のぼうけん

北田 直矢

力持ちで、少しそっかしいそうまと、いつも注意深く行動するゆなは、小さいころからの友だちです。学校にも、毎日いっしょに通っています。

ある朝、いつものように二人が学校へ向かっていると、道に古い地図が落ちていました。

ほのおをはく鳥に見とれていたそうまは、何かにつまずきました。そのとたん、ゴーツと地ひびきのような音がしました。そうまは、きよだいなわにのしっぽにつまずいて、ねむっていたわにを起こしてしまったのです。

「このつるを使って。急いで。」

そうまは、ゆなが投げた草のつるで、わにの口をぐるぐるとしばりました。二人は、とぶようににげました。

…

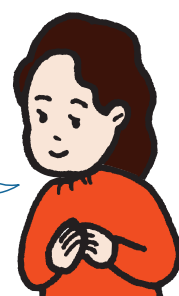
そうして、二人は、ぶじに島から帰ってきました。タぐれの町を、明るいひようじようで歩く二人のポケットには、たから物がぎっしりつまっています。



4 友だちの物語を読んで、感想をつたえよう。

- とくにおもしろかったところ
- まねしてみたい言葉の使い方

わにが出てきたところは、読んでいてときどきしたよ。「とぶように」という言葉から、――。



ふりかえろう

知る 書く つなぐ

自分のそうぞうしたことがうまく書き表せたと思うのは、どの言葉ですか。とくに読む人を引きつけた場面では、どのように書き表し方をくふうしましたか。これから、物語を作るときには、どんなことに気をつけたいですか。

書き表し方を考えるときは

□ 場面や出来事、登場人物の様子を表す言葉を使う。

• いつ、だが、どこで、何を、どのようにしたかを表す言葉  
• 見えるものやふうけい、聞こえてくる音などを表す言葉

□ どんな登場人物かによって、会話や行動をどう書くかを考える。

□ 登場人物の気持ちを表す言葉を使う。  
• 「うれしい」「おどろく」など、気持ちをはっきり分かる言葉  
• 「ここにこわらう」「おいおいなく」など、行動の様子を表す言葉

ほかに、大事なと思ったことはありますか。

「言葉のたから箱」 165 ページ



たいせつ

書き表し方をくふうして、物語を書く

○ 様子や感じがくわしくつたわるように、言葉を言いかえたり、くわえたりする。

○ 登場人物の気持ちや、その人物らしさがよく分かるように、会話や行動などの書き方を考える。



いかそう

私の回りの出来事をつたえるときにも、言葉の使い方をくふうしましょう。

つたえたいことを、理由をあげて話そう

# お気に入り場所、教えます

学校には、図書館、音楽室、校庭など、さまざまな場所がありますね。あなたが好きな場所はどこですか。クラスのみんなに発表しましょう。



## 問いをもとう

みんなの前で発表するとき、あなたは、どんなことに気をつけていますか。もっとうまくつたわるようにするには、どうすればよいでしょうか。

## もくひょう

お気に入り場所のことが、聞く人に分かりやすくつたわるように、発表しよう。

## ① お気に入り場所を考えよう。

みんなに教えたいお気に入り場所を、一つ決めましょう。そして、どうしてそこが好きなのかを考えましょう。

## ② しりようを用意しよう。

分かりやすくつたえるために、どんなしりようがあるか、よいか考えましょう。写真をとりに行ってもいいですね。



しばふが一面に植えられることが分かる写真をとろう。



## ● たしかめよう

「三年上までに学んだこと」……… 8 ページ

## ● 見通しをもとう

① お気に入り場所を考える。

② しりようを用意する。

③ 組み立てを考えて、発表メモを作る。

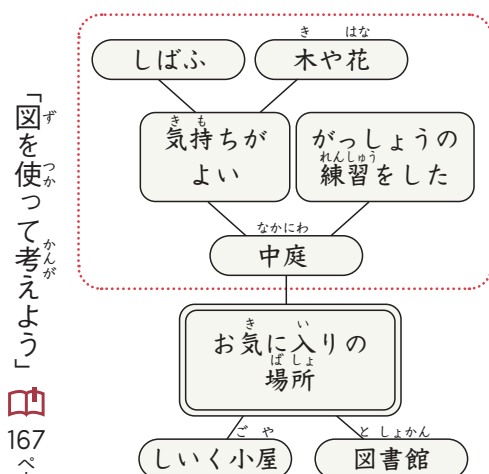
④ 練習をして、発表会を開く。

⑤ 感想をつたえ合う。

## ● ふりかえろう

- 声の強弱や話す速さなど、話し方をくふうする。
- つたえたいことに合った理由をあげて話す。

## ○ 話すことを考えるときは



「図を使って考えよう」 167 ページ

強弱



### 3 組み立てを考えて、発表メモを作ろう。

分かりやすくつたえるための組み立てを考え、発表メモを作りましょう。

#### 発表メモのれい



▼下の「発表メモのれい」や、119ページの「発表のれい」を見て、組み立てのくふうを見つけてみましょう。

### 4 練習をして、発表会を開こう。

分かりやすくつたわるように、話し方をくふうしましょう。練習の様子をさつえいして、見返すのもいいですね。

おわり	中	はじめ
<p>まとめ</p> <p>これから、中庭でたくさんの時間をすごし、いろいろな思い出を作っていきたい。</p>	<p>理由① 気持ちがいい</p> <p>理由② 思い出がある</p> <p>↓練習を重ねて、遠くまでびびく声が出せるようになった。</p>	<p>お気に入りの場所</p> <p>中庭</p> <p>写真</p> <p>理由は、夏はあたたかい。冬はあたたかい。</p> <p>木や花↓きせつが感じられる。</p>

### 組み立てを考えると

- はじめ つたえたいことをはっきりさせる。
- 中 つたえたいことに合った理由を、いくつかあげる。
- 終わり つたえたいことを、もう一度くり返す。「はじめ」で言うことより、くわしくしてもよい。

ほかに、大事なと思ったことはありますか。

発表のれいを見てみましょう。



#### 発表のれい

わたしのお気に入りの場所は、東こうしやと西こうしやの間にある中庭です。

中庭がすきな理由は、二つあります。

一つ目は、気持ちのよさです。しばふが植えられているので、夏はずしく、冬はあたたかく感じます。また、しばふのおかげで転んでもいたくないので、思い切り遊べます。そして、まわりに木や花があるので、きせつを感じることができます。

二つ目は、思い出の場所だということです。みなさんは、ここで、がっしりの練習をしたことをおぼえていますか。がっしり祭に向けて、何度も、ここで練習しましたね。はじめは小さな歌声でしたが、練習を重ねるうちに、遠くまでびびく声が出せるようになりました。本番では、みんなの息がぴったり合い、聞きにきてくれたちいきの方に、「きれいなハーモニーだったよ。」と言ってもらえました。

このように、中庭は、わたしにとって、お気に入りの場所です。これから、この中庭でたくさんの時間をすごし、いろいろな思い出を作っていきたいと思います。



#### 話し方をくふうするときは

聞く人のことや、つたえないようから、次のことをどうするか、考えましょう。

- ・声の大きさや強弱
- ・話す速さ
- ・間の取り方
- ・写真や絵などのしりょうの見せ方

#### 理由を話すときの言葉

- ・理由は、二つあります。
- ・一つ目の理由は、……。二つ目の理由は、……。
- ・それは、……からです。

5 感想をつたえ合おう。

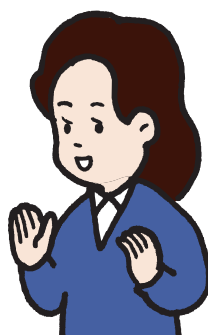
発表をふり返り、よかったところをつたえ合いましょう。

○組み立てについて

お気に入りの場所を、はじめにはっきり言っていたので、つたえたいことがよく分かりました。

○話し方について

さいこの言葉をゆつくり話して、中庭が大きいことが、よくつたわってきました。



理由をあげて、つたえたいことを話す

- つたえたいことをはっきりさせ、「はじめ」と「終わり」でくり返す。
- つたえたいことに合う理由を考え、分かりやすいしりようを用意する。
- つたえたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどのくふうを考える。



何かを発表するときには、つたえたいことに合う理由を考えましょう。



ふりかえろう

知る  
話す・聞く  
つなぐ

聞く人やないように合わせて、どのように話し方をくふうしましたか。分かりやすくつたえるために、どのような組み立てを考えましたか。次に発表するときには、友だちのどんなくふうをまねたいですか。



読む

登場人物について考えたことを、つたえ合おう

これまでの学習



登場人物がどのようににへんかしたかを考える



(まいごのかぎ) ..... 上90ページ

場面をくらはながら読み、感想をもつ

30ページ



# モチモチの木

この物語には、「豆太」という男の子が出てきます。どんな人物なのでしょう。そして、「モチモチの木」とは、どんな木なのでしょう。



# モチモチの木<sup>き</sup>

斎藤 隆介<sup>さいとう りゅうすけ</sup> 作<sup>さく</sup>  
滝平 二郎<sup>たきだいら じろう</sup> 絵<sup>え</sup>

おくびよう豆太<sup>まめた</sup>

全く、豆太<sup>まめた</sup>ほどおくびようなやつはない。もう五<sup>いつ</sup>つにもなったんだから、夜<sup>よ</sup>中に、一人<sup>ひとり</sup>でせっちんぐらいに行<sup>い</sup>けたたていい。

ところが、豆太<sup>まめた</sup>は、せっちんは表<sup>おもて</sup>にあるし、表<sup>おもて</sup>には大きなモチモチの木<sup>き</sup>がっつ立<sup>た</sup>っていて、空<sup>そら</sup>いっぱいのかみの毛<sup>け</sup>をバサバサとふるって、両手<sup>りょうて</sup>を「わあっ」とあげるからって、夜中<sup>よなか</sup>には、じさまについてってもらわないと、一人<sup>ひとり</sup>じゃしようべんもできないのだ。

じさまは、ぐっすりねむっている真夜中<sup>まよなか</sup>に、豆太<sup>まめた</sup>が「じさまあ。って、どんなに小<sup>ちい</sup>さい声<sup>こえ</sup>で言<sup>い</sup>っても、「しよんべんか。」と、すぐ目<sup>め</sup>をさましてくれる。いっ



しよにねている一<sup>いち</sup>まいしかないふとんを、ぬらされちまうよりいいからなあ。

それに、とうげのりようし小屋<sup>ごや</sup>に、自分<sup>じぶん</sup>とたった二人<sup>ふたり</sup>でくらしている豆太<sup>まめた</sup>が、かわいそうで、かわいかったからだろう。

けれど、豆太<sup>まめた</sup>のおとうだって、くまと組<sup>く</sup>みうちして、頭<sup>あたま</sup>をぶっさかれて死<sup>し</sup>んだほどのきもすけだったし、じさまだって、六十四<sup>ろくじゅうし</sup>の今<sup>いま</sup>、まだ青じしを追<sup>お</sup>っかけて、きもをひやすような岩<sup>いわ</sup>から岩<sup>いわ</sup>へのとびうつりだって、見事<sup>みごと</sup>にやってのける。

それなのに、どうして豆太<sup>まめた</sup>だけが、こんなにおくびようなんだろうか――。

せっちん  
べんじよのこと。

きもすけ

どきようのある人<sup>ひと</sup>のこと。

青じし

かもしかのこと。



写真

新漢字<sup>しんかんじ</sup>  
162 ページ

追<sup>お</sup>いかける

ツイ  
おう



やい、木い

モチモチの木<sup>き</sup>ってのはな、豆太<sup>まめた</sup>がつけた名前<sup>なまえ</sup>だ。小屋<sup>こや</sup>のすぐ前<sup>まえ</sup>に立<sup>た</sup>っている、でっかいでっかい木<sup>き</sup>だ。

秋<sup>あき</sup>になると、茶色<sup>ちやいろ</sup>いびかぴか光<sup>ひか</sup>った実<sup>み</sup>を、いっぱいふり落<sup>お</sup>としてくれる。その実<sup>み</sup>を、じさまが、木<sup>き</sup>うすでついて、石<sup>いし</sup>うすでひいてこなにする。こなにしたやつをもちにこね上<sup>あ</sup>げて、ふかして食<sup>た</sup>べると、ほっぺたが落<sup>お</sup>つこちるほどうまいんだ。

「やい、木い、モチモチの木い、実<sup>み</sup>い落<sup>お</sup>とせえ。」

なんて、昼間<sup>ひるま</sup>は木<sup>き</sup>の下<sup>した</sup>に立<sup>た</sup>って、かた足<sup>あし</sup>で足<sup>あし</sup>ぶみして、いばってさいそくしたりするくせに、夜<sup>よる</sup>になると、豆太<sup>まめた</sup>はもうだめなんだ。木<sup>き</sup>がおこって、両手<sup>りょうて</sup>で、「お化<sup>ば</sup>けえ。」って、上<sup>うへ</sup>からおどかさんだ。夜<sup>よる</sup>のモチモチの木<sup>き</sup>は、そっちを見<sup>み</sup>ただけで、もう、しょんべ

んなんか出<sup>で</sup>なくなっちゃまう。

じさまが、しゃがんだひざの中<sup>なか</sup>に豆太<sup>まめた</sup>をかかえて、「ああ、いい夜<sup>よる</sup>だ。星<sup>ほし</sup>に手<sup>て</sup>がとどきそうだ。おく山<sup>やま</sup>じゃあ、しかやくまめらが、鼻<sup>はな</sup>ぢようちん出<sup>だ</sup>して、

ねっこけてやがるべ。それ、シーツ。」

って言<sup>い</sup>ってくれなきゃ、とつても出<sup>で</sup>やしな<sup>い</sup>。しないでねると、あしたの朝<sup>あさ</sup>、とこの中<sup>なか</sup>がこうずいになっちゃまうもんだから、じさまは、かならずそうしてくれるんだ。五<sup>い</sup>つになつて「シー」なんて、みっともな<sup>い</sup>やなあ。

でも、豆太<sup>まめた</sup>は、そうしなくっちゃだめなんだ。





## 霜月二十日のばん

そのモチモチの木に、今夜は、灯がともるばんなんだそうだ。じさまが言った。「霜月の二十日のうしみつにやあ、モチモチの木に灯がともる。起きてて見てみる。そりやあ、きれいだ。おらも、子どものころに見たことがある。死んだおまえのおとうも見たそうだ。山の神様のお祭りなんだ。それは、一人の子どものしか、見ることはできねえ。それも、ゆうきのある子どもだけだ。」

「——それじゃあ、おらは、とってもだめだ——」。

豆太は、ちっちゃい声で、なきそうに言った。だって、じさまもおとうも見たんなら、自分も見たかったけど、こんな冬の真夜中に、モチモチの木を、それも、たった一人で見に出るなんて、とんでもねえ話だ。ぶるぶるだ。

木のえだえだの細かいところにまで、みんな灯がともって、木が明るくばうつとかがやいて、まるでそれは、ゆめみてえにきれいなんだそうだが、そして、豆太は、「昼間だったら、見てえなあ——」。と、そっと思っただが、ぶ

るぶる、夜なんて考えただけでも、おしっこをもらしちまいそうだ——。  
豆太は、はじめっからあきらめて、ふとんにもぐりこむと、じさまのたばこくさいおねん中に鼻をおしつけて、よいの口からねてしまった。

## 豆太は見た

豆太は、真夜中に、ひよっと目をさました。頭の上で、くまのうなり声が聞こえたからだ。

「じさまあつ。」

おちゅうでじさまにしがみつこうとしたが、じさまはいない。  
「ま、豆太、心配すんな。じさまは、じさまは、ちよっとはら

がいてえだけだ。」  
まくら元で、くまみたいに体を丸めてうなっていたのは、じ  
さまだった。

10

5



霜月  
十一月の古いよび名。

今夜

うしみつ

真夜中のこと。「うしみつ時」ともいう。

神様

シン  
ジン  
かみ

10

5

◆二十日  
はつか

よいの口  
ひがくれてから、まだあまり時間がたかないころ。



「じさまっ。」

こわくて、びっくらしして、豆太はじさまにとびついた。けれども、じさまは、ころりとたたみに転げると、歯を食いしばって、ますますすごくなるだけだ。

「医者様をよばなくっちゃ。」

豆太は、小犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふっとばして走りだした。

ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで――。

外はすごい星で、月も出ていた。とうげの下りの坂道は、一面の

10

5



真っ白い霜で、雪みたいだった。霜が足にかみついた。足からは血が出た。豆太は、なきなき走った。いたくて、寒くて、こわかったからなあ。

でも、大すきなじさまの死にまうほうが、もっとこわかったから、なきなきふもとの医者様へ走った。

これも、年よりじさまの医者様は、豆太からわけを聞くと、

「おう、おう――」。

と言って、ねんねこぼんてんに薬箱と豆太をおぶうと、真夜中のとうげ道を、えっちら、おっちら、じさまの小屋へ上ってきた。

10

5

半道

やく二キロメートル。

ねんねこぼんてん

赤ちゃんをせおうと  
きに、赤ちゃんをつ  
つむように着る、わ  
た入りのはんてん。

薬箱

はこ





とちゅうで、月<sup>つき</sup>が出てゐるのに、雪<sup>ゆき</sup>がふり始めた。この冬<sup>ふゆ</sup>はじめての雪<sup>ゆき</sup>だ。豆<sup>まめ</sup>太<sup>た</sup>は、そいつをねんねこの中<sup>なか</sup>から見た<sup>み</sup>。

そして、医者<sup>いしや</sup>様のこしを、足<sup>あし</sup>でドンドンけとばした。じさまが、なんだか死<sup>し</sup>んじまいそうな氣<sup>き</sup>がしたからな。

豆<sup>まめ</sup>太<sup>た</sup>は、小屋<sup>こや</sup>へ入<sup>はい</sup>るとき、もう一つふしぎなものを見た<sup>み</sup>。

「モチモチの木<sup>き</sup>に、灯<sup>ひ</sup>がついている。」



けれど、医者様は、

「あ、ほんとだ。まるで、灯がついたようだ。だども、あれは、とちの木の後ろにちょうど月が出てきて、えだの間に星が光ってるんだ。そこに雪がふってるから、明かりがついたように見えるんだべ。」

と言って、小屋の中へ入ってしまった。だから、豆太は、その後は知らない。医者様のてつだいをして、かまどにまきをくべたり、湯をわかしたりなんたり、いそがしかったからな。

弱虫でも、やさしけりや

でも、次の朝、はらいたがなおって元気になったじさまは、医者様の帰った後で、こう言った。

「おまえは、山の神様の祭りを見たんだ。モチモチの木には、灯がついたんだ。おまえは、一人で、夜道を医者様よびに行けるほど、ゆうきのある子どもだっ

たんだからな。自分で自分を弱虫だなんて  
思うな。人間、やさしささえあれば、やら  
なきやならねえことは、きっとやるもんだ。  
それを見て、他人がびっくらするわけよ。  
は、は、は。」

——それでも、豆太は、じさまが元気にな  
ると、そのばんから、

「じさまあ。」

と、しょんべんにじさまを起こしたとき。



●明かり

○湯 ゆ  
トウ

○他人 タ  
ほか

さいとうりゅうすけ  
斎藤 隆介

一九一七～八五年  
東京都生まれ。作家。  
「ペロ出しチョンマ」  
「ユとムとヒ」など  
の作品がある。



見通しをもとう



問いをもとう

あなたは、「豆太」をどのような人物だと思いましたか。  
友だちは、どのように考えているでしょうか。



もくひょう

人物を表す言葉に気をつけて読み、「豆太」について考えたことを友だちとつたえ合おう。

・年れいやせいかくを表す言葉など、人物を表す言葉に気をつける。  
・自分と友だちの考えのちがいや、友だちの考えのよさに気づく。

語り手  
物語の地の文を語る人。  
164ページ  
自身  
165ページ

とらえよう

○場面ごとに、「豆太」と「じさま」の行動や会話、そのときの様子をたしかめましょう。

ふかめよう

○「豆太」はどんな人物ですか。行動や会話、語り手が語る言葉などをもとに、そうぞうしましょう。  
○物語のはじめと終わりで、「豆太」はかわったでしょうか。着目する点を一つえらび、場面や言葉を

まとめよう

○「豆太」について考えてきて感じたことや、自分とくらべて考えたことなどをまとめましょう。その考えが、作品のどこから生まれているのかも書きましよう。

ひろげよう

○まとめた考えをつたえ合ひましょう。友だちの考えと自分の考えをくらべ、にているところやちがうところ、新しく気づいたことを見つけましょう。



ふりかえろう

知る 読む つなぐ  
どの言葉から、「豆太」がどんな人物かをそうぞうしましたか。  
友だちの考えを聞いて、新しく気づいたことや、考えがかわったことは何ですか。  
着目する点をえらんで読んでみて、どう思いましたか。

2 えらんで読み深めよう

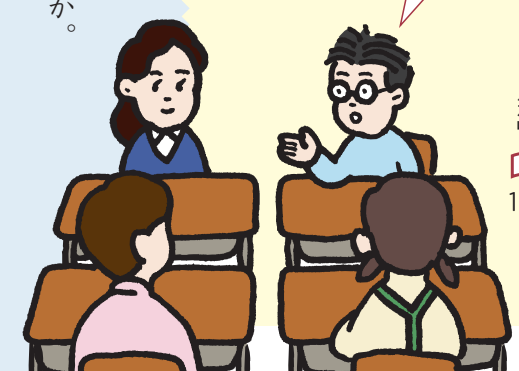
次の中から一つえらんで、考えましょう。

- 「豆太」の行動
- 「豆太」の、自分自身への見方
- 「じさま」から見た「豆太」
- 「豆太」の、モチモチの木への思い

3 つたえ合ひのれい

ぼくは、「豆太」はゆうきが  
あるなと思いました。「豆太は  
見た」の場面では、——。もし、  
ぼくが「豆太」だったら、——。

「言葉のたから箱」  
165ページ





たいせつ

## 登場人物についての 考えをつたえ合う

- 次のことに着目し、場面や言葉をおすびつけながら、登場人物の気持ちのへんかやせいかくについて考える。
- その人物の行動や会話
- 語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉
- 考えるときに着目した言葉や文を明らかにしながら、登場人物と自分をくらべて感じたことをつたえる。
- 他の人と感想を交流することで、新しい考えに出会うことができる。



いかそう

物語を読んだら、友だちと交  
流して、登場人物や物語につい  
ての考えや感じ方のちがいを楽  
しみましょう。

15

10

5



**八郎**  
八郎は、山のように大きな男。波  
で田を流された村の人々を助けた  
と、ある行動に出ます。

15



**花さき山**  
山で道にまよったあやは、一面に  
さく美しい花にびっくり。山はが、  
そのひみつを教えてくださいました。

10



**ソメコとオニ**  
ソメコは五さいの女の子。オニに  
さらわれても平気で、ずっと遊びに  
さそいます。つかれたオニは、――。

5



## この本、読もう

斎藤隆介さんの本です。どんな人物が出てく  
るでしょうか。



## 漢字の ひろば

6

2年生で習った漢字

れい

絵の中の人になりきって、それぞれのきせつでどんなことをしたかを  
書きましょう。修飾語を使って、まわりの様子もくわしく表しましょう。  
わたしは、春に、友だちと野原へピクニックに出かけました。  
空はすっきりと晴れ、あたたかな風がふいていました。







# 三年生をふり返って

一年間、たくさんのことを学びましたね。  
 『たいせつ』のまとめ（140ページ）を見て、国語で  
 学んだことをふり返りましょう。そして、とくに身につ  
 いたと思う言葉の力を書きましょう。

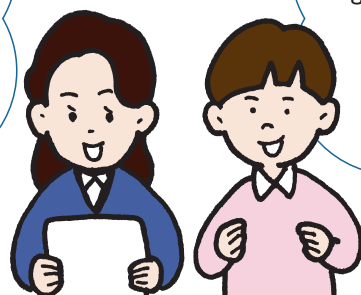
こんな力がついたらよ。



5

分かったことと考えたこと  
 をくべつて書く力がついたら。  
 ほうこくする文章を書くとき  
 に、気をつけたよ。

わたしは、場面と場面をく  
 らべながら、物語を読めるよ  
 うになった。



身につけた言葉の力を、どんな  
 ときにいかしたいですか。友だち  
 とつたえ合ってもいいですね。



# 学習を広げよう

## たしかめよう

- かだいの見つけ方、調べ方
- 平がなとかたかな
- ローマ字の表



「たいせつ」のまとめ.....	140
メロディ——大すきなわたしのピアノ.....	144
くすのきしげのり.....	148
本の世界を広げよう.....	150
げんこう用紙の使い方.....	152
知ると楽しい「故事成語」.....	154
これまでに習った漢字.....	159
この本で習う漢字.....	163
つたえ合うための言葉.....	165
学習に用いる言葉.....	167
言葉のたから箱.....	167
図を使って考えよう.....	167

# 「たいせつ」のまとめ

三年生で学習する、大切なことをまとめています。  
 ・たしかめたり、他の学習で使ったりしましょう。  
 ・くうらんには、それぞれの学習をふり返ってみて、自分が大切だと思ったことを書きましょう。

## 進行を考えながら話し合う

42 ページ

- 話し合いの目的と、決めること、役わり、進め方をたしかめる。
- 出た意見の、同じところやちがうところを整理しながら進行する。

- 司会の進行にそって、みんなでどうやって決めるのかをいしきしながら話し合い、考えをまとめる。

## 理由をあげて、つたえたいことを話す

120 ページ

- つたえたいことをはっきりさせ、「はじめ」と「終わり」でくり返す。

- つたえたいことに合う理由を考え、分かりやすいしりょうを用意する。

- つたえたいことに合わせて、声の強弱や話す速さなどのくふうを考える。

## 三年上

### 話を聞いて、知りたいことをしつもんする

- 話す人の方を見ながら、話の中心に気をつけて聞く。
- 自分がとくに知りたいことをはっきりさせ、どのようにしつもんするとよいかを考える。

### 話し合って、考えを広げる

- 全員が意見を出し、たがいの考えをみとめながら話し合う。
- 出された意見について、しつもんしたり、考えを足したりして、考えを広げる。



他に、大事なと思ったことはありませんか。

## 分かりやすい組み立てを考える

55 ページ

- 話題をしめし、ないようのもまとまりごとに、段落を分ける。

- つたえたいことに合ったたいいをえらび、読む人に分かりやすい順序を考える。

## 書いた文章の感想をつたえ合う

85 ページ

- ないようや書き方について、どう思ったのかをくわしくつたえる。
- 感想をつたえ合うことで、自分の文章の、ないようや書き方のよい点を見つける。

## 物語を書くときの組み立て

93 ページ

- どんな出来事が起こるのかをそうぞうし、次のような組み立てて物語を考える。

- ① 始まり
- ② 出来事（じけん）が起こる
- ③ 出来事（じけん）がかいけつする
- ④ むすび

## 書き表し方をくふうして、物語を書く

115 ページ

- 様子がくわしくつたわるように、言葉をいいかえたり、くわえたりする。
- 登場人物の気持ちや、その人物らしさがよく分かるように、会話や行動などの書き方を考える。

## 三年上

### 読みかえして、文章をととのえる

- 相手にとってひつようなことや、自分がつたえたいことが書かれているかをたしかめる。
- まちがいや分かりにくいところはなにか、相手に合わせた言葉を使っているかをたしかめる。

### 読む人のことを考えて、書くことをえらぶ

- メモに書いておいたことの中から、自分がとくにつたえたいことをえらぶ。
- 読む人が知っていると知らないこと、知りたいだろうことを考える。

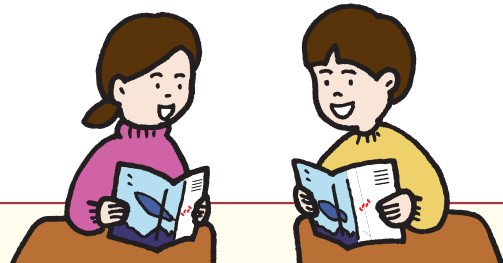
### 図を使って、何を書くかを考える

- 思いついたことを、線をつなぎながら書く。
- くわしく書き出したことの中から、いちばんつたえたいことをえらぶ。



他に、大事なと思ったことはありませんか。





## せつめいする文章

### 話題と、れいの書かれ方を考えながら読む

51 ページ

- 題名や「はじめ」から、話題をたしかめる。
- 「中」のれいと話題とのつながりから、それぞれの段落の中心となる言葉や文を考える。

- れいをあげる順序や、写真の使い方など、筆者のれいの書き方のくふうを見つける。

### せつめいする文章を読んで、考えをもつ

106 ページ

- 考えをもつためには、次のことを見つめながら読むとよい。
- ・ はじめて知って、おどろいたこと
- ・ 「どうしてだろう」と、ふしぎに思ったこと
- ・ もっと知りたいと思ったこと
- 考えたことをつたえ合うときには、自分の考えと同じところやちがうところに着目する。

## 物語

### 場面をくらべながら読み、感想をもつ

30 ページ

- 場面をくらべて読み、にているところやちがうところ、登場人物の気持ちのうつりかわりを考える。

- 場面をくらべることによって気づいたことや、かわったり深まったりした考えについて、物語のどこからそう感じたのかを明らかにしながらまとめる。

### ないようや書かれ方に着目して読む

80 ページ

- 次のようなことに着目すると、お話のおもしろさを見つけることができる。

- ・ 登場人物の行動
- ・ 登場人物の様子と、そのへんか
- ・ 起こった出来事と、それがどうなったか
- ・ 言葉の使われ方や、文の調子

### 登場人物についての考えをつたえ合う

136 ページ

- 次のことに着目し、場面や言葉をむすびつけながら、登場人物の気持ちのへんかやせいにかくについて考える。
- ・ その人物の行動や会話
- ・ 語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉
- 考えるときに着目した言葉や文を明らかにしながら、登場人物と自分をくらべて感じたことをつたえる。
- 感想を交流することで、新しい考えに出会うことができる。

## 三年上 せつめいする文章

### 文章全体の組み立てをとらえる

- 文章は、「はじめ」「中」「おわり」などの大きなまとまりに分けられる。大きなまとまりは、一つ、またはいくつかの段落でできている。

- 一つ一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないうかが書かれている。

- 「問い」と「答え」に気をつけると、文章全体の組み立てや、段落の中心をとらえることができる。

### 作り手のくふうを考える

- だれに向けて作られているか、何を、どのようにつたえようとしているかを考える。
- 言葉と絵、しやしんなどを、どう組み合わせているかを考える。



他に、大事なと思ったことはありませんか。

## 三年上 物語

### 言葉に着目して、登場人物の気持ちをたしかめる

- 気持ちをそのままあらわす言葉からたしかめる。

- したことや言ったことをあらわす言葉から、登場人物の様子を考える。

- 場面の様子をあらわす言葉から、登場人物がどうかんでいるかを考える。

### 登場人物がどのようにへんかしたかを考える

- どんな出来事がおこったか、登場人物がどのような様子や気持ちなのかをたしかめる。

- 出来事がおこる前と後で、登場人物の考え方や気持ちが変わったかを考える。

- 登場人物の考え方や気持ちのへんかは、言ったことや、その人物の様子を表す言葉から、そう思うことができる。



他に、大事なと思ったことはありませんか。

# メロディ——大すきなわたしのピアノ

くすのきしげのり 作

▼第一場面と第四場面で、同じところ  
とちがうところはどこでしょうか。  
▼「ピアノ」の気持ちは、どのように  
かわっていったでしょうか。

「たくさんひいてもらうんだよ。」

そう言われて、一台のピアノが、工場を出ました。

「だれがひいてくれるのかしら。」ピアノは、来る日も来る日も、楽しみに待ちました。

ある日、けんばんのふたが開けられ、小さな手が、そっとけんばんにふれました。ピアノは心がふるえました。

「お母さん、ひいてもいい。」

ド——レ——ミ——。

人さし指で、けんばんを少しおさえただけでした

が、ピアノは、せいっぱいの音をひびかせました。

それからピアノは、小さな指がおさえるけんばんの音を、一つ一つ、心をこめてひびかせました。

「このピアノが気に入ったかな。」

「うん、とっても。お父さん、このピアノも、わたしのことが大スキみたい。」

「レッスンはつづけられるかしら。」

「だいじょうぶ。このピアノとなら、きつとつづけられるわ。」

そう言うとき、女の子とピアノは、はずんだ音をひび

かせました。

ピアノが家に来た日、五月二十四日は、女の子の六さいのおたんじょう日でした。

「お父さん、お母さん、すてきなピアノをありがとう。」

そうして、しばらく考えてから、女の子が言い出した。

「わたし、このピアノに名前をつけてあげようと思

うの。名前は——、そうだ。『メロディ』がいいわ。

それから、わたしと同じ、今日がメロディのおたんじょう日よ。」

『メロディ』——。なんてすてきな名前かしら。

わたしはメロディ。わたしは、世界で一台だけの、名前のあるピアノ。メロディは、うれしくてたまりませんでした。

女の子は、毎日毎日、メロディをひきました。

発表会の前には、何度も何度も練習をしました。

うれしいことがあったとき、悲しいことがあったとき、女の子は、いつもメロディをひきました。メロディは幸せでした。メロディは、女の子の心に合

わせて、いつもすてきな音をひびかせていました。でも、女の子が中学生になり、高校生になると、メロディとすこす時間が、だんだんと少なくなっ

ていきました。やがて、女の子が遠くの大学へ行くと、メロディが音を出すこともなくなりました。

それでも、メロディは、遠くでくらす女の子のことを考えたり、楽しかった日のことを思い出したりしながら、毎日をしずかにすごしました。

そうして、何年も何年もたちました。

ある日のことです。

作業服を着た男の人たちが、メロディを、部屋の



外へ運び出しました。

「この部屋は、こんなに広かったんだな。」

「ここには、ピアノの代わりに何をおこうかしら。」

お父さんとお母さんの話を聞いて、メロディはむねがはりさけそうでした。「もう、わたしの帰ってくる場所がないなんて。わたしはどうなるのかしら。きつと、すてられてしまいうにちがいないわ。だって、こんなに古びてしまったんですもの。」

メロディは、小さな工場へ運ばれました。そこには、中をのぞかせた、一台の古いピアノがありました。「わたしも、こうしてこわされて、すてられてしまうのかわ。ああ、それならさいごにもう一度、あの指でひいてほしかった。」

「どれ、始めるとするか。」

そうして、けんばんのふたが開けられたとき、メロディは、自分からしずかなねむりにつきました。

——ところがどうでしょう。

メロディがねむりにについている間に、黄ばんでいたけんばんは真っ白になり、くすんでいた体は、かがみのようにぴかぴかになりました。いたんでいた部品は取りかえられ、正しい音が出るように調整されました。

メロディは、こわされるどころか、何日もかけて、元のように生まれかわったのでした。

メロディは、工場から、知らない家に運ばれました。メロディには、何が起こっているのか分かりませんでした。

しばらくすると、メロディのけんばんのふたが開けられ、小さな手が、そっとけんばんにふれました。メロディは心がふるえました。

「お母さん、ひいてもいい。」

ド——レ——ミ——。

人さし指で、けんばんを少しおさえただけでした

が、メロディは、あわてて、せいっぱいの音をひかせました。

それからメロディは、小さな指がおさえるけんばんの音を、一つ一つ、一生けんめいにひひかせました。

「いいこと教えてあげようか。このピアノは、『メロディ』っていうのよ。今日は五月二十四日。お母さんとメロディのおたんじょう日なの。」  
言いながら、お母さんの指が、やさしくけんばんにふれました。

「メロディ、わたしよ。おぼえているかしら。」  
お母さんは、ハッピーバースデーの曲をひき始めました。

「わすれるものですか。この指は、いつもメロディをひいてくれていた、あの女の子の指です。」  
メロディは、昔のように、心を合わせて音をひひかせました。

「なんてうれしそうな音かしら。——ごめんね、メロディ。さびしい思いをさせて。」

その夜、メロディは、なつかしい指で、たくさんの曲をひいてもらいました。お母さんをまねて、女の子も、小さな指でけんばんをおさえてみました。

メロディは、その音も、一つ一つ、心をこめてひひかせました。

「このピアノが気に入ったかな。」

「うん、とっても。お父さん、このピアノも、わたしのことが大スキみたい。」

「レッスンはつづけられるかしら。」

「だいじょうぶ。このピアノ——『メロディ』となら、きつとつづけられるわ。」

そう言うと、女の子とメロディは、はずんだ音をひひかせました。

くすのきしげのり 一九六一年 徳島県生まれ。作家。

# 本の世界を 広げよう



読み終わった本には、  
□にしるしをつけましょう。

## 物語・絵本



□先生、感想文、書けません！

山本悦子 作  
佐藤真紀子 絵

本を読むのはすき。でも、感想文を書くのは苦手。そんなみずかは、あるさくせんを思いついたようです。

□パイパーさんのバス



エリナー・クライマー 作  
クルト・ヴィーゼ 絵  
小宮由記 訳

犬とねこ、おんどりをもらってくれる人をさがしに、バスの運転手のパイパーさんは、古い、緑色のバスを走らせました。

## 科学・ちしき



□すごいね！みんなの通学路

ローズマリー・マカーサー 文  
西田佳子 訳

川や氷の上、けわしい山道。世界の子どもたちは、いろいろな通学路を通って、学校に通っています。

□足のうらずかん



①ほ乳類

村田浩一 監修

パンダやゾウの足のうらを、見たことがありますか。生き物の足は、くらしに合った形に進化しています。

□生きものはみんなちがって  
おもしろい



ニラ・ディビス 文  
ローナ・スビー 絵  
平田三枝 訳  
高部圭司 監修

チョウは二万、木は十萬のしゅるいがあります。地球上には、おどろくほどたくさんの生き物がいるのです。

□二平方メートルの世界で



前田海音 文  
はたこうしろう 絵

病気で入院中の、小学三年生の海音。ある日、二平方メートルの病室のベッドの上で、あるものを発見します。

□火曜日の  
ごちそうは  
ヒキガエル



ラッセル・E・エリクソン 作  
ローレンス・ディ・フオリ 絵  
佐藤凉子 訳

ミミズクにつかまったヒキガエルのウオートン。次の火曜日は、ミミズクのたんじよう日で、ごちそうは――。

□やとのいえ



八尾慶次

一けんんの農家と、そこでくらす家族の、やぐひゃくごうねん百五十年のうつりかわりを、十六かんさんの目から見つめます。

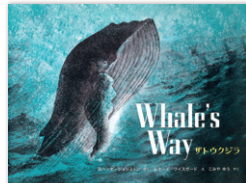
□サナギのひみつ



三輪一雄 著  
大谷剛 監修

さなぎは、じつとして動きません。でも、その中では、成虫になるために、すごいことが起こっていました。

□ザトウクジラ



ヨハンナ・リジョンストン 作  
レナード・ワイズガード 絵  
こみやゆう 訳

ザトウクジラは、きせつごとに世界の海を旅しながら、えさを食べたり、子育てをしたりして、くらしています。

□くらして発見！  
いろいろな図形



「算数使いかたナビ」編集委員会 編

屋根は三角形で、本は四角形。身の回りには、いろいろな図形がかくれています。さがしてみよう。

□エルマーの  
ぼうけん



ルース・スタイルス・リ・ガネット 作  
ルース・クリスティー・リ・ガネット 絵  
わたなべしげお 訳

エルマーは、のらねこから、どうぶつ島につかまったりゆうの子の話を聞き、助けに行くことにしました。

□わすれられない  
おくりもの



スーザン・バレイ 作・絵  
小川仁央 訳

森のみんなは、かしこくてやさしいアナグマが大すき。アナグマは、みんなにおくり物をのこしてくれました。

□へいわと  
せんそう



たにかわしゅんたろう 文  
Noritake 絵

「へいわのボク」と「せんそうのボク」では、何がかわるのでしょうか。いろいろな人やものをくらべて、考えてみましょう。

□世界のことばで  
こんにちば



ケナード・ブラック 絵  
上田勢子 訳

あいさつの言葉を、たいくごにしようかい。あいさつをかわして、世界中の子どもたちとよくなりましょう。

□空の絵本



長田弘 作  
荒井良二 絵

雨がふり、風がふき、雲が流れ――。いろいろな表情を見せる、空。空をながめなくなる、詩の絵本です。

□十二支の  
ことわざえほん



高島純

ねずみ、牛、とら――。昔、方角や時こななどを表すのに使われた、十二の動物が出てくることわざを集めた絵本です。

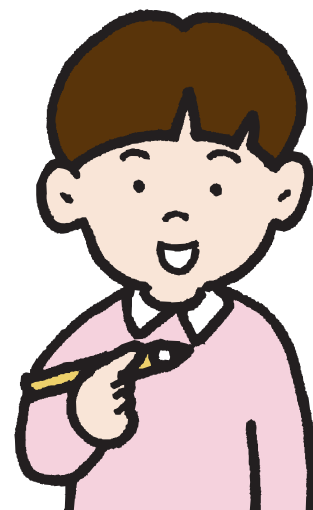


# げんこう用紙の使い方

げんこう用紙に書くときには、書き方に気をつけましょう。  
 文章を書き終わったら読み返して、まちがっているところや  
 分かりにくいところがあれば、直しましょう。

題名は、はじめの行に、上  
 から二、三ます空けて書く。

5



足元の動物たち

北田 直矢

日曜日に、お母さんとおにいちゃんと、遠

くに住むおばあちゃんに会いに行きました。

そして、みんなでいっしょに動物園に行っ

た。ぼくは、動物のしゃんがついたマンホ

ールのふたを見つけました。

ぼくが見つけたふたには、色のついたパン

ダのしゃんがついていました。見ていると、

「あっちにもあるみたいだよ。」

、おにいちゃんが

と言いました。ぼくとおにいちゃんは、何の

動物のしゃんがついているか、走って見に

行きました。

書き始めは、一ます空

ける。  
 句点（。）や読点（、）は、  
 一ますに書く。

行をかえたら、一ます  
 空ける。

句点や読点が行のはじめ  
 に来ないように、前の行の  
 いちばん下のますに、文字  
 といっしょに書く。（ます  
 の下に書くこともある。）

話した言葉は、行をかえ  
 て、かぎ（「」）をつけて書く。  
 言葉の終わりの句点とか  
 ぎ（。）は、一ますにいっ  
 しょに書く。

長い文を分ける、言葉の重なりをなくす、言葉が  
 足りないところをおぎなうなどして、整える。

# 知ると楽しい「故事成語」

いろいろな故事成語を知り、生活の中で使ってみましょう。

## 杞憂

意味

心配しなくてもよいことを、おやみに心配すること。取りこし苦労。

言葉の由来

昔、中国の杞という国に、とても心配性の人  
がいた。その人は、いつも天地がくずれ落ちるの  
ではないかと心配し、ねることも食べることもで  
きないほどだった。



5

## 蛇足

意味

ひつようなないものをつけくわえることで、全  
体をだめにしてしまうこと。よけいなつけ足し。

言葉の由来

だれが蛇の絵をいちばん速くかけるか、きよう  
そうした。先にかきあげた人が、他の人がまだか  
いているのを見て、調子に乗って、あまった時間  
で蛇に足をかき足した。すると、「蛇に足はない」  
と言われて負けてしまった。



10

5

## 登竜門

意味

むずかしいが、そこをこえればせいこうし、出  
世できるという大切な場所。

言葉の由来

黄河（中国の川）には、竜門という流れの急な  
場所があり、こいがここを登ることができると、  
竜になるというでんせつがあった。



5

## 螢雪の功

意味

苦労して学問にはげむこと。また、そのせい  
か。

言葉の由来

まずしくて、明かりをつけるための油を買えな  
い人が、夏には螢を集めて、その光で本を読んだ。  
同じように、べつのまずしい人は、冬に雪明かり  
で本を読んだ。後に、どちらの人も、りっぱな地  
位についた。



5



□1 空 ⑧ 「あける」 クウ	□3 具 ⑧ グ	□3 区 ④ ク	く	□3 銀 ⑭ ギン	□1 金 ⑧ かね コン	□2 近 ⑦ ちかい キン	□1 玉 ⑤ たま ギョク	□3 局 ⑦ キョク	□3 業 ⑬ 「わぎ」 ギョウ	□2 教 ⑪ 「おしえる」 キョウ	□2 強 ⑪ 「つよまる」 「つよい」 「つよめる」 「しいる」 キョウ
□2 言 ⑦ 「ゲン」 コト	□2 元 ④ 「ガン」 もと	□3 県 ⑨ ケン	□1 見 ⑦ 「みせる」 「みる」 「みえる」 ケン	□1 犬 ④ 「いぬ」 ケン	□1 月 ④ 「ガツ」 つき	□3 決 ⑦ 「きまる」 「きめる」 「はからう」 ケツ	□2 計 ⑨ 「はかる」 「はかり」 ケイ	□3 係 ⑨ 「かか」 「かか」 「かか」 ケイ	□2 形 ⑦ 「かた」 「かた」 「かた」 ケイ	□2 兄 ⑤ 「あに」 「ケイ」 「キョウ」 「	

員 ⑩ イン	引 ④ イン ひける ひく	一 ① イチ ひとつ ひと	意 ⑬ イ	安 ⑥ アン やすい	悪 ⑪ アク わるい	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 ⑩ なつ △カ	夏 
--------------	---------------------------	---------------------------	-------------	---------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------

これまでに習った漢字

△は、これから習う読み方。( )は、小学校では習わない読み方。

男 □1 ⑦ △ナン おとこ	題 □3 ⑮ ダイ	台 □2 ⑤ △ダイ	大 □1 ③ △ダイ おおい	体 □2 ⑦ △タイ からだ	対 □3 ⑦ △タイ (ツイ)	太 □2 ④ △タイ ふとい	多 □2 ⑥ △タ おおい	た	村 □1 ⑦ △ソン むら	速 □3 ⑩ ソク はやい			
長 □2 ⑧ チョウ ながい	町 □1 ⑦ チョウ まち	柱 □3 ⑨ チュウ はしら	昼 □2 ⑨ △チュウ ひる	注 □3 ⑧ チュウ そぐ	虫 □1 ⑥ チュウ むし	中 □1 ④ チュウ なか	着 □3 ⑫ △チャク (ジャク)	茶 □2 ⑨ チャ (サ)	竹 □1 ⑥ △チク たけ	知 □2 ⑧ チ しる	池 □2 ⑥ △チ いけ	地 □2 ⑥ ジチ	ち
鉄 □3 ⑬ テツ	笛 □3 ⑪ フエ	定 □3 ⑧ △テイ さだめる	弟 □2 ⑦ △テイ おとうと	て	通 □2 ⑩ △ツウ (ツ)	つ	直 □2 ⑧ △チヨク なおす	調 □3 ⑮ △チヨウ しらべる	朝 □2 ⑫ △チヨウ あさ	鳥 □2 ⑪ △チヨウ とり			
答 □2 ⑫ △トウ こたえる	登 □3 ⑫ トウ のぼる	東 □2 ⑧ トウ ひがし	当 □2 ⑥ △トウ あてる	冬 □2 ⑤ △トウ ふゆ	刀 □2 ② △トウ かたな	土 □1 ③ ツツ つち	都 □3 ⑪ ツト みやこ	と	電 □2 ⑬ デン	田 □1 ⑤ デン た	点 □2 ⑨ テン	店 □2 ⑧ テン みせ	天 □1 ④ △テン (あめ)
肉 □2 ⑥ ニク	二 □1 ② ニ ふた	に	南 □2 ⑨ △ナン みなみ	内 □2 ④ △ナイ うち	な	読 □2 ⑭ △ドク よむ	道 □2 ⑫ △ドウ みち	童 □3 ⑫ △ドウ (わらべ)	動 □3 ⑪ △ドウ うごかう	同 □2 ⑥ ドウ おなじ	頭 □2 ⑯ △ズ (ト)		
白 □1 ⑤ △ハク しろ	買 □2 ⑫ バイ かう	倍 □3 ⑩ パイ	売 □2 ⑦ △バイ うれる	馬 □2 ⑩ △ウマ うま	波 □3 ⑧ ハ なみ	は	農 □3 ⑬ ノウ ノウ	の	年 □1 ⑥ ネン とし	ね	入 □1 ② ニュウ はいる	日 □1 ④ ジツ かひ	
表 □3 ⑧ △ヒョウ おもて	氷 □3 ⑤ △ヒョウ こおり	百 □1 ⑥ ヒャク	筆 □3 ⑫ ヒツ	悲 □3 ⑫ △ヒ かなしい	ひ	番 □2 ⑫ バン	板 □3 ⑧ ハン いた	坂 □3 ⑦ ハン さか	半 □2 ⑤ △ハン なにか	発 □3 ⑨ △ハツ (ホツ)	ハ	麦 □2 ⑦ △バク むぎ	

酒 □ <sub>3</sub> ⑩ さ シユ さけ	首 □ <sub>2</sub> ⑨ く △シユ くび	手 □ <sub>1</sub> ④ △シユ て (た)	弱 □ <sub>2</sub> ⑩ △シヤク よわまる よわまる よわい よわまる	者 □ <sub>3</sub> ⑧ シヤ もの	車 □ <sub>1</sub> ⑦ シヤ くるま	社 □ <sub>2</sub> ⑦ △シヤ やしろ	室 □ <sub>2</sub> ⑨ シツ (むろ)	七 □ <sub>1</sub> ② シチ なな ななつ	式 □ <sub>3</sub> ⑥ シキ	時 □ <sub>2</sub> ⑩ ジ とき	持 □ <sub>3</sub> ⑨ ジ もつ	事 □ <sub>3</sub> ⑧ ジ (ズ) こと
女 □ <sub>1</sub> ③ △シヨ (ニヨ) (ニヨ) おんな (め)	書 □ <sub>2</sub> ⑩ シヨ かく	所 □ <sub>3</sub> ⑧ シヨ ところ	春 □ <sub>2</sub> ⑨ △シユン はる	出 □ <sub>1</sub> ⑤ シユツ (スイ) でる だす	住 □ <sub>3</sub> ⑦ ジユウ すまう	十 □ <sub>1</sub> ② ジユウ とお △と ジツ(ジュン)	集 □ <sub>3</sub> ⑫ シユウ あつまる あつめる (つどう)	週 □ <sub>2</sub> ⑪ シユウ	習 □ <sub>3</sub> ⑪ シユウ ならう	秋 □ <sub>2</sub> ⑨ △シユウ あき	拾 □ <sub>3</sub> ⑨ シユウ ひろう	
食 □ <sub>2</sub> ⑨ シヨク (ジキ) くう たべる	色 □ <sub>2</sub> ⑥ △シキ いろ	場 □ <sub>2</sub> ⑫ ジョウ ば	上 □ <sub>1</sub> ③ ジョウ (シヨウ) うえ うわ かみ あげる あがる (のぼる) (のぼせる) (のぼす)	勝 □ <sub>3</sub> ⑫ シヨウ かつ (まさる)	章 □ <sub>3</sub> ⑪ シヨウ	商 □ <sub>3</sub> ⑪ シヨウ (あきなう)	少 □ <sub>2</sub> ④ シヨウ すくない すこし	小 □ <sub>1</sub> ③ シヨウ ちいさい △おこ	助 □ <sub>3</sub> ⑦ △ジョ たすける たすける (すけ)			
水 □ <sub>1</sub> ④ スイ みず	図 □ <sub>2</sub> ⑦ △ズ (はかる) トズ	す	人 □ <sub>1</sub> ② ジン ひと	親 □ <sub>2</sub> ⑯ シン おや したしむ	新 □ <sub>2</sub> ⑬ シン あたらしい あらた △にい	森 □ <sub>1</sub> ⑫ △シン もり	進 □ <sub>3</sub> ⑪ シン すすめる すすむ	深 □ <sub>3</sub> ⑪ シン ふかい ふかまる ふかめる	申 □ <sub>3</sub> ⑤ △シン もうす (シン)	心 □ <sub>2</sub> ④ シン こころ	植 □ <sub>3</sub> ⑫ △シヨク うえる うわる	
青 □ <sub>1</sub> ⑧ △セイ (シヨウ) あおい	声 □ <sub>2</sub> ⑦ セイ (シヨウ) こえ (こわ)	西 □ <sub>2</sub> ⑥ △サイ にし	生 □ <sub>1</sub> ⑤ セイ シヨウ	正 □ <sub>1</sub> ⑤ △セイ ただしい ただす △まさ	世 □ <sub>3</sub> ⑤ セイ よ	せ	数 □ <sub>2</sub> ⑬ スウ (ズ) かず かぞえる					
先 □ <sub>1</sub> ⑥ セン さき	川 □ <sub>1</sub> ③ カハ (セン) かわ	千 □ <sub>1</sub> ③ チン ち	雪 □ <sub>2</sub> ⑪ セツ ゆき	切 □ <sub>2</sub> ④ サイ (サイ) きる きれる	昔 □ <sub>3</sub> ⑧ セキ (シヤク) むかし	赤 □ <sub>1</sub> ⑦ △セキ (シヤク) あか あかい あからむ あからめる	石 □ <sub>1</sub> ⑤ セキ (コク) いし	夕 □ <sub>1</sub> ③ セキ (セキ) ゆう	整 □ <sub>3</sub> ⑯ セイ ととのえる ととのう	晴 □ <sub>2</sub> ⑫ セイ はれる はらす	星 □ <sub>2</sub> ⑨ △セイ (シヨウ) ほし	
足 □ <sub>1</sub> ⑦ ソク あし たず	送 □ <sub>3</sub> ⑨ ソウ おく	草 □ <sub>1</sub> ⑨ ソウ くさ	相 □ <sub>3</sub> ⑨ △ソウ (シヨウ) あい	走 □ <sub>2</sub> ⑦ ソウ はしる	早 □ <sub>1</sub> ⑥ ソウ (サツ) はやい はやまる はやめる	組 □ <sub>2</sub> ⑪ △ソウ くみ	そ	前 □ <sub>2</sub> ⑨ ゼン まえ	全 □ <sub>3</sub> ⑥ ゼン まったく すべて	線 □ <sub>2</sub> ⑮ セン	船 □ <sub>2</sub> ⑪ △セン ふね △ふな	



<div>17</div> <div>真</div> <div>10画</div> <div>ま シン</div> <div>真真真真真真真真真真</div>	<div>17</div> <div>写</div> <div>5画</div> <div>シャ うつつ うつつ</div> <div>写写写写写写写写写写</div>	<div>13</div> <div>想</div> <div>13画</div> <div>ソウ (ソ)</div> <div>想想想想想想想想想想想想</div>	<div>ちいちゃんのかげおくり</div>	<div>13</div> <div>想</div> <div>13画</div> <div>ソウ (ソ)</div> <div>想想想想想想想想想想想想</div>	<div>ページ</div> <div>かんじ</div> <div>漢字</div> <div>かくすう</div> <div>画数</div> <div>よみかた</div> <div>読み方</div> <div>ひつじゆん</div> <div>筆順</div> <div>つか</div> <div>かた</div> <div>使い方</div>
<div>24</div> <div>寒</div> <div>12画</div> <div>カン さむい</div> <div>寒寒寒寒寒寒寒寒寒寒</div>	<div>24</div> <div>暑</div> <div>12画</div> <div>ショ あつい</div> <div>暑暑暑暑暑暑暑暑暑暑</div>	<div>21</div> <div>橋</div> <div>16画</div> <div>キョウ はし</div> <div>橋橋橋橋橋橋橋橋橋橋</div>	<div>21</div> <div>暗</div> <div>13画</div> <div>アン くらい</div> <div>暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗暗</div>	<div>20</div> <div>血</div> <div>6画</div> <div>ケツ ち</div> <div>血血血血血血血血血血</div>	<div>17</div> <div>列</div> <div>6画</div> <div>レツ</div> <div>列列列列列列列列列列</div>
<div>31</div> <div>返</div> <div>7画</div> <div>ヘン かえる</div> <div>返返返返返返返返返返</div>	<div>しゅうしよくご</div> <div>修飾語を使って書こう</div>	<div>28</div> <div>第</div> <div>11画</div> <div>ダイ</div> <div>第第第第第第第第第第</div>	<div>27</div> <div>命</div> <div>8画</div> <div>メイ (ミョウ)</div> <div>命命命命命命命命命命</div>	<div>26</div> <div>軽</div> <div>12画</div> <div>ケイ</div> <div>軽軽軽軽軽軽軽軽軽軽</div>	
<div>33</div> <div>荷</div> <div>10画</div> <div>カ 荷物</div> <div>荷荷荷荷荷荷荷荷荷荷</div>	<div>33</div> <div>根</div> <div>10画</div> <div>コン</div> <div>根根根根根根根根根根</div>	<div>33</div> <div>屋</div> <div>9画</div> <div>オク</div> <div>屋屋屋屋屋屋屋屋屋屋</div>	<div>33</div> <div>州</div> <div>6画</div> <div>シュウ (す)</div> <div>州州州州州州州州州州</div>	<div>31</div> <div>主</div> <div>5画</div> <div>シュ</div> <div>主主主主主主主主主主</div>	

# この本で習う漢字

（ ）は、小学校では習わない読み方。

文 ④ ブン (ふみ)	分 ④ ブン	物 ⑧ ブツ もの	服 ⑧ フク	風 ⑨ フウ かぜ	部 ⑪ ブ	負 ⑨ フ おうまける	父 ④ フ ちち	ふ	品 ⑨ ヒン しな	秒 ⑨ ビョウ			
北 ⑤ ホク きた	放 ⑧ ホウ はなつ はなす はなれる	方 ④ ホウ かた	母 ⑤ ボ はは	歩 ⑧ ホ あるく あゆむ	ほ	勉 ⑩ ベン	米 ⑥ マイ こめ	平 ⑤ ヘイ ひら	へ	聞 ⑭ ブン (モン) きこえる			
明 ⑧ メイ あかり あかる あかす あける あきらか	名 ⑥ メイ な	め	味 ⑧ ミ あじわう	み	万 ③ マン (パン)	妹 ⑧ マイ いもうと	毎 ⑥ マイ	ま	本 ⑤ ホン ほん	木 ④ ボク き			
葉 ⑩ エフ くすり	野 ⑪ ノ のヤ	夜 ⑧ ヤ よる	や	問 ⑪ モン とん	門 ⑧ モン (かど)	目 ⑤ モク (め)	毛 ④ モウ け	も	面 ⑨ メン (おもて) (つら)	鳴 ⑭ メイ なく			
曜 ⑩ ヨウ ヨウ	様 ⑭ ヨウ さま	陽 ⑫ ヨウ ヨウ	葉 ⑫ ヨウ は	洋 ⑨ ヨウ ヨウ	用 ⑤ ヨウ もちいる	予 ④ ヨ	よ	遊 ⑫ ユウ あそぶ	有 ⑥ ユウ ある	友 ④ ユウ とも	油 ⑧ ユ あぶら	由 ⑤ ユ (よし) (ユイ)	ゆ
林 ⑧ リン はやし	緑 ⑭ リョク みどり	力 ② リキ ちから	両 ⑥ リョウ リョウ	旅 ⑩ リョ たび	立 ⑤ リツ (リュウ) たてる	理 ⑪ リ	里 ⑦ リ さと	り	落 ⑫ ラク おちる おとす	来 ⑦ ライ くる	ら	練 ⑭ レン ねる	れ
話 ⑬ ワ はなす	わ	六 ④ ロク むっ むい	ろ	路 ⑬ ロ じろ	ろ	練 ⑭ レン ねる	れ						

66 美 9画	66 息 10画	62 短 12画	61 血 5画	61 皮 5画
うつくしい美しい花 ビ美美美美美美美 美声美化	ソク消息安息 いきため息鼻息 息息息息息息	タン短歌短時間 みじかい短い言葉 短短短短短短	さら血あらひ さる血あらひ	かわ表皮皮肉 ヒ表皮皮肉 皮皮皮皮皮
70 配 10画	70 重 9画	70 飲 12画	70 医 7画	68 転 11画
くばるハイ配配配配配 新聞を配る心配気配	かさねるおもいえチヨウジユウ 重々重重重 体重大軽重貴重三重量	イン飲む飲食薬を飲む 飲飲飲飲飲飲	イ医医医医医医 医者医学	ころがるころげるころがすころぶ 球が転がる球を転がす山道で転ぶ 転転転転転転
70 病 10画	70 病 10画	70 病 10画	70 病 10画	70 病 10画
ピヨウ病氣重病 （エイ） （やむ） やまい 病は氣から	病病病病病病 病氣重病	病病病病病病 病氣重病	病病病病病病 病氣重病	病病病病病病 病氣重病
94 帳 11画	82 族 11画	82 流 10画	76 幸 8画	73 度 9画
チヨウウ日記帳手帳 帳帳帳帳帳帳帳	ゾク水族館家族 族族族族族族族	リユウ交流流行 ながれる雨水が流れるあせを流す （ル） ながるながるながる	コウ幸福さいわい幸い元気だ（さち）しあわせ 幸幸幸幸幸幸幸	ド一度今度 （ト） （タク） （たび） 度度度度度度度
94 宿 11画	94 羊 6画	94 炭 9画	94 投 7画	94 代 5画
シユク宿題合宿 やど宿に着く宿に宿する命を宿す やど雨宿り宿宿宿宿宿宿宿	ひつじヨウ羊毛羊を数える 羊羊羊羊羊羊	すみタン石炭炭火炭やき 炭炭炭炭炭炭炭	トウ投げる球を投げる 投手投書 投投投投投投投	ダイ時代代表 タイ交代 かわる当番を代わる かえる当番を代える千代紙 （しろ） 曲曲曲曲曲曲曲 キョク曲線作曲まがる右に曲がるまげるこしを曲げる

45 消 10画 かく	45 育 8画 かく	43 豆 7画 かく	33 役 7画 かく	33 守 6画 かく
消消消消消消消 シヨウ きえる けす 電気を消す	育育育育育育育 イク そだつ そだてる はぐくむ ゆめを育む	豆豆豆豆豆豆豆 トウ ズ まめ 大豆 豆まき 黒豆	役役役役役役役 ヤク (エキ) 役立つ 役所	守守守守守守守 シュ ス まもる (もり) 留守番 決まりを守る
57 急 9画 かく	56 福 13画 かく	50 終 11画 かく	49 畑 9画 かく	46 取 8画 かく
急急急急急急急 キユウ いそぐ 道を急ぐ	福福福福福福福 フク 幸福	終終終終終終終 シュウ おわる おえる 夏が終わる 食事を終える	畑畑畑畑畑畑畑 はた はたけ 花畑 田畑 畑作	取取取取取取取 シュ とる 取材 取り出す
60 鼻 14画 かく	59 談 15画 かく	59 待 9画 かく	57 苦 8画 かく	57 起 10画 かく
鼻鼻鼻鼻鼻鼻鼻 (ビ) はな 鼻歌 鼻血	漢字の意味 かんじのいみ	谈谈谈谈谈谈谈 ダン タイ まつ 期待 電車を待つ	苦苦苦苦苦苦苦 ク くるしい 暑苦しい 苦労 苦心 くるしむ 心が苦しめる にがい 暑いコーヒー にが 苦り切った顔	起起起起起起起 キ おきる 起きる 早起き おこる 火事が起こる 体を起こす おこす
61 駅 14画 かく	61 和 8画 かく	61 昭 9画 かく	61 級 9画 かく	61 委 8画 かく
駅駅駅駅駅駅駅 エキ 駅前	和和和和和和和 ワ 昭和 平和	昭昭昭昭昭昭昭 シヨウ 昭和	級級級級級級級 キユウ 学級 上級生	委员会 イ ゆだねる 会長に委ねる
61 階 12画 かく	61 央 5画 かく	61 歯 12画 かく	61 齒 12画 かく	60 齒 12画 かく
階階階階階階階 カイ 二階 階下	中央 オウ 中央	歯歯歯歯歯歯歯 ハ きれいな歯	齒齒齒齒齒齒齒 シ 歯科	齒齒齒齒齒齒齒





# 学習に用いる言葉

国語の学習で、よく使われる言葉です。  
意味をたしかめて、学習に役立てましょう。

## 会話文・地の文

かぎ(「」)でしめしている、登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

28 ページ

## れい

「どうすればなるんじや」……会話文  
おじいさんは、ふとんから顔を出しました。……地の文

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。

地の文では、登場人物の様子や行動を表しているところに、その登場人物のせいかくや気持ちが表れていることがある。

## 司会

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

37 ページ

## 語り手

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

134 ページ

語り手がどのような立場で、どの登場人物によりそっているかをたしかめると、その物語の世界をいっそう深く味わうことができる。

## 三年上で学んだ言葉

### 問い(問いの文)

せつめいする文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いつける形で表した文のこと。

55 ページ

### 段落

文章を組み立てている、事がらごとのないようのもまとまり。はじめを一字下げて表す。

55 ページ

### 引用

他の人の言葉や、本などに書かれていることを、自分の文章の中で使うこと。元の言葉や文を、そのままぬき出す。

97 ページ

### 出典

引用した言葉が書かれていた本やしりょうなどのこと。

97 ページ

### さくいん

その本の中にある言葉や物事がどのページにあるかを、五十音順などでしめしてあるもの。

107 ページ

## 連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとまり。

119 ページ

## キヤツチコピー

相手を引きつけるようにくふうされた、短い言葉。

125 ページ

## 二年生までに学んだ言葉

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| <input type="checkbox"/> あらすじ | <input type="checkbox"/> 場面 |
| <input type="checkbox"/> 組み立て | <input type="checkbox"/> 筆者 |
| <input type="checkbox"/> 作者   | <input type="checkbox"/> メモ |
| <input type="checkbox"/> しつもん | <input type="checkbox"/> 訳者 |
| <input type="checkbox"/> 題名   | <input type="checkbox"/> 話題 |
| <input type="checkbox"/> 登場人物 |                             |







# 言葉のたから箱

人物や出来事をせつめいするときや、自分の考えや気持ちを書いたり話したりするときに、役立てましょう。

## 人物を表す言葉

いさましい  
たのもし  
たよりな  
がんこ  
注意深  
そそっか  
おさない  
心が広  
自分勝手  
活発

## 物や事からの様子を表す言葉

はだ寒い  
うす暗  
ごうか  
ぜいたく  
ふべん  
またたくま  
思いがけない  
とつぜん  
じわじわ  
せいかく

大げさ  
重苦しい  
わずか  
きちよう

これまでに学んだ言葉を見る。



国語辞典で意味を調べてもいいね。



## 「さいころトーク」を楽しもう

ここにある言葉で、スピーチを試みましょう。

言葉を書いたさいころをふって、話題を決める「さいころトーク」をしても楽しいですよ。

### 「さいころトーク」の進め方

- ① グループで、好きな言葉を六つえらび、それぞれの面に言葉を書いたさいころを作る。
- ② 話をする順番を決め、自分の番になったら、さいころをふる。
- ③ 出た言葉から思い浮かんだことを話題に、スピーチをする。

## 気持ちを表す言葉

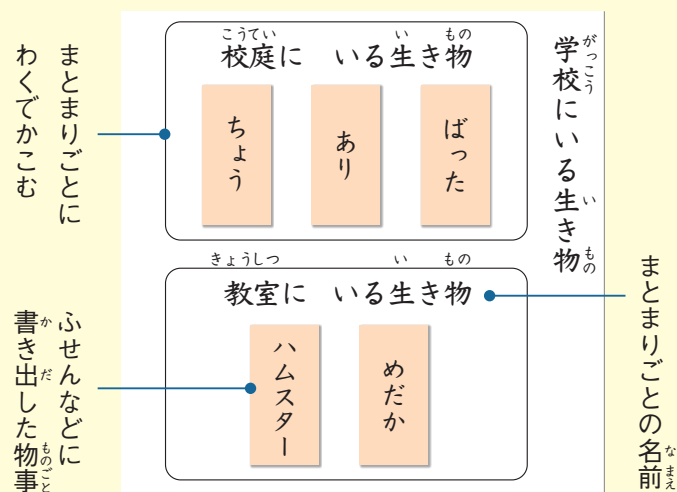
待ち遠しい  
むちゆう  
はり切る  
いよく的  
めんどろ  
物足りない  
注目する  
引きつけられる  
このむ  
とくいになる

ぎよっとする  
はっとする  
目を丸くする  
ぞっとする  
こわごわ  
ぞくぞくする  
おそろるおそろる  
おそれる  
なさけない  
申しわけない

期待  
心がくもる  
こだわる  
ひっし  
せいっぱい  
決心する

## 分ける

たくさんの物事は、いくつかのまとまりに分けると、整理することができます。



- は、——のなかまです。
- は、○つに分けることができます。
- を、——という点から分けてみました。

ぼくは、学校に<sup>がっこう</sup>いる生き物<sup>いきもの</sup>を、学校内<sup>がっこううち</sup>のどこに<sup>どこに</sup>いるかという点<sup>てん</sup>から、二つのまとまりに分けてみました。



## くらべる

表に整理すると、物事の<sup>ものごと</sup>とくちやうがくらべやすくなります。

遊ぶ<sup>あそ</sup>びに行くなら、A市<sup>エーし</sup>かB市<sup>ビーし</sup>か。

交通 <sup>こうつう</sup>	人 <sup>ひと</sup>	しぜん	
バス	少ない <sup>すくない</sup>	山 <sup>やま</sup> 海 <sup>うみ</sup>	A市 <sup>エーし</sup>
バス	多い <sup>おおい</sup>	海 <sup>うみ</sup>	B市 <sup>ビーし</sup>

どんな点<sup>てん</sup>をくらべるか

くらべる物事<sup>ものごと</sup>

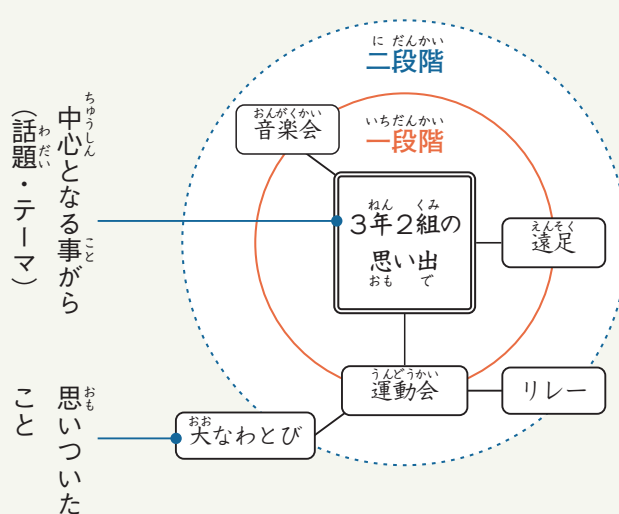
- と——をくらべると、——。
- いっぽう、——は——。
- は同じ<sup>おな</sup>ですが、——はちがいます。

A市<sup>エーし</sup>とB市<sup>ビーし</sup>をくらべると、海<sup>うみ</sup>はどちらにもありますが、山<sup>やま</sup>はA市<sup>エーし</sup>にしかありません。



## 広げる

中心<sup>ちゅうしん</sup>となる事<sup>こと</sup>がらから、思い<sup>おも</sup>いたことをつなげて書<sup>か</sup>くと、考<sup>かん</sup>えを<sup>ひろ</sup>げやすくなります。



- を書<sup>か</sup>き出<sup>だ</sup>していくと、——。
- について思い<sup>おも</sup>いついたことを書<sup>か</sup>くと、——。
- について書<sup>か</sup>き出<sup>だ</sup>したことのなかから、——。

クラスの思い出<sup>おも</sup>を書<sup>か</sup>き出<sup>だ</sup>していくと、運動会<sup>うんどうかい</sup>でしたことをくわしく思い出<sup>おも</sup>せました。そのなかから、わたしは、リレーについて話<sup>はな</sup>すことに決<sup>き</sup>めました。

